

HAKODATE  
YOKOHAMA  
KOBE  
NAGASAKI  
NIIGATA

実りの秋  
にいがたへ  
来なせや

# 田園と港が 出会うまち、 政令指定都市・ 新潟で語り合おう

開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会

開催記録

- ◆日程/2007年 11月9日(金)・10日(土)・11日(日) (419)
- ◆主催/開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会
- ◆参加者/開港5都市(函館市・横浜市・神戸市・長崎市・新潟市)の景観まちづくり市民団体・一般参加者

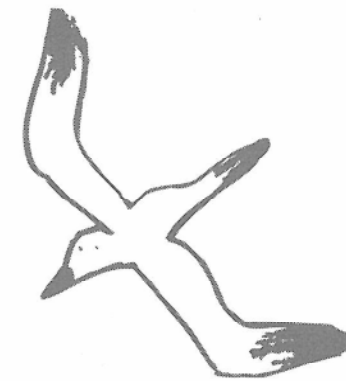
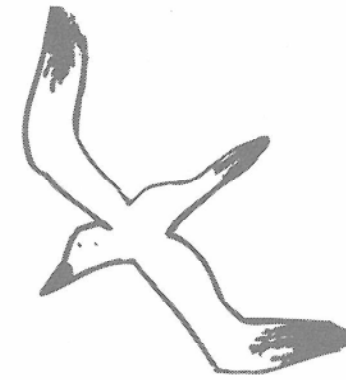
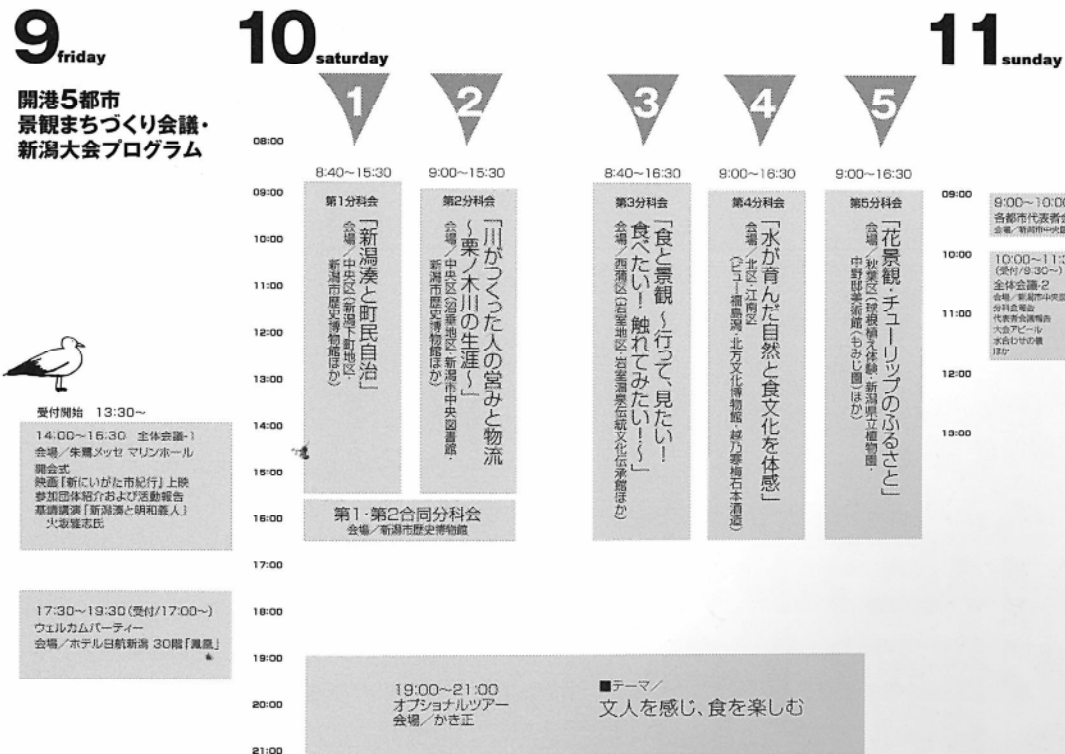
この度、新潟市において「開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会」を開催させていただきました。この会議は、安政の修好通商条約により開港した5都市（函館・横浜・神戸・長崎・新潟）の市民団体が、それぞれのまちにおいて、開港都市としての歴史や文化を尊重し、身近なまち並みの形成やまちづくりに取り組む活動を互いに確認しあい、交流を図るため、1993年秋、神戸から開催してまいりました。

三巡目を迎えた2007年、新潟市は13市町村合併や政令指定都市移行など、大きく都市が変化して来ました。その中の開催で実行委員会は、広域になった新潟市をお見せすることで、未来を探ろうと考え地域を巡る5分科会を企画しました。それぞれの地域の方々のご協力により、参加された開港5都市の皆様や市民からご好評を得ることができました。この開催記録はその分科会を中心に編集いたしました。新しい新潟市、そして開港5都市としての新潟市の魅力が伝われば幸いです。

ご参加いただきました皆様をはじめ、多数の皆様からご支援ご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。

開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会実行委員会

## Program



## Contents

5つの分科会	p02
第1分科会	p04
第2分科会	p10
第3分科会	p16
第4分科会	p22
第5分科会	p26
基調講演	p32
全体会議-1	p46
新にいがた市紀行	p54
ウェルカムパーティー	p55
各都市代表者会議	p56
全体会議-2	p57
大会アピール	p58
規約等	p60
2007新潟大会を終えて交流が始まった・編集後記	p65
団体紹介	p66

2007新潟大会を終えて交流が始まった・編集後記



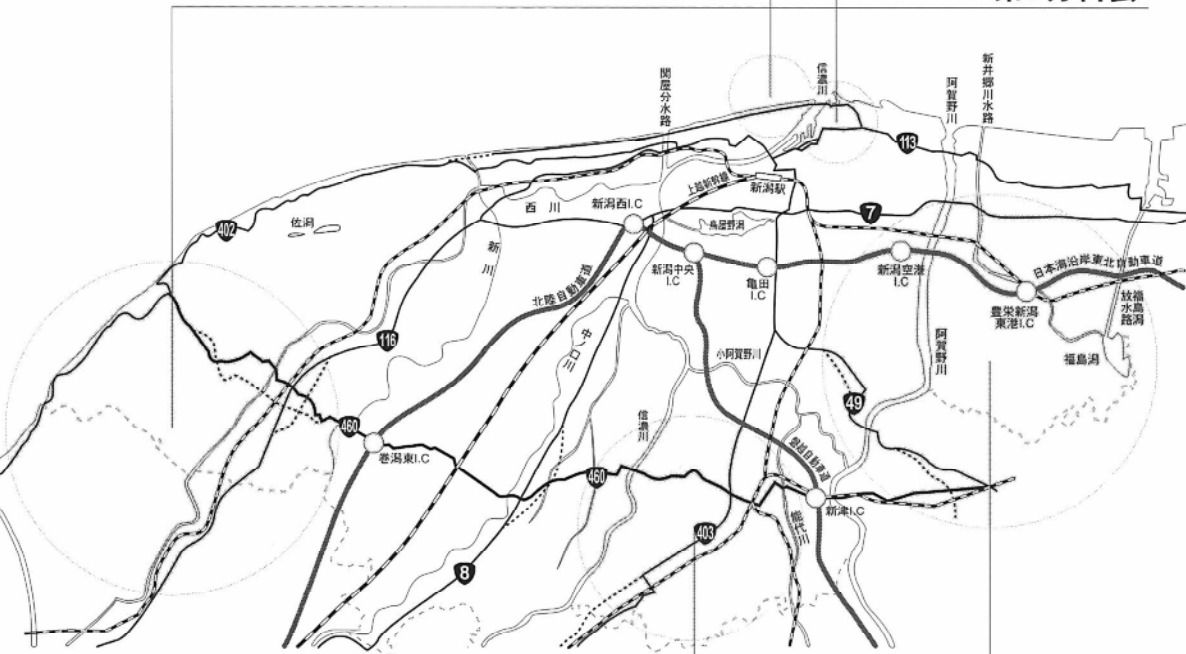
# 5つの分科会

AREA map

1  
第1分科会

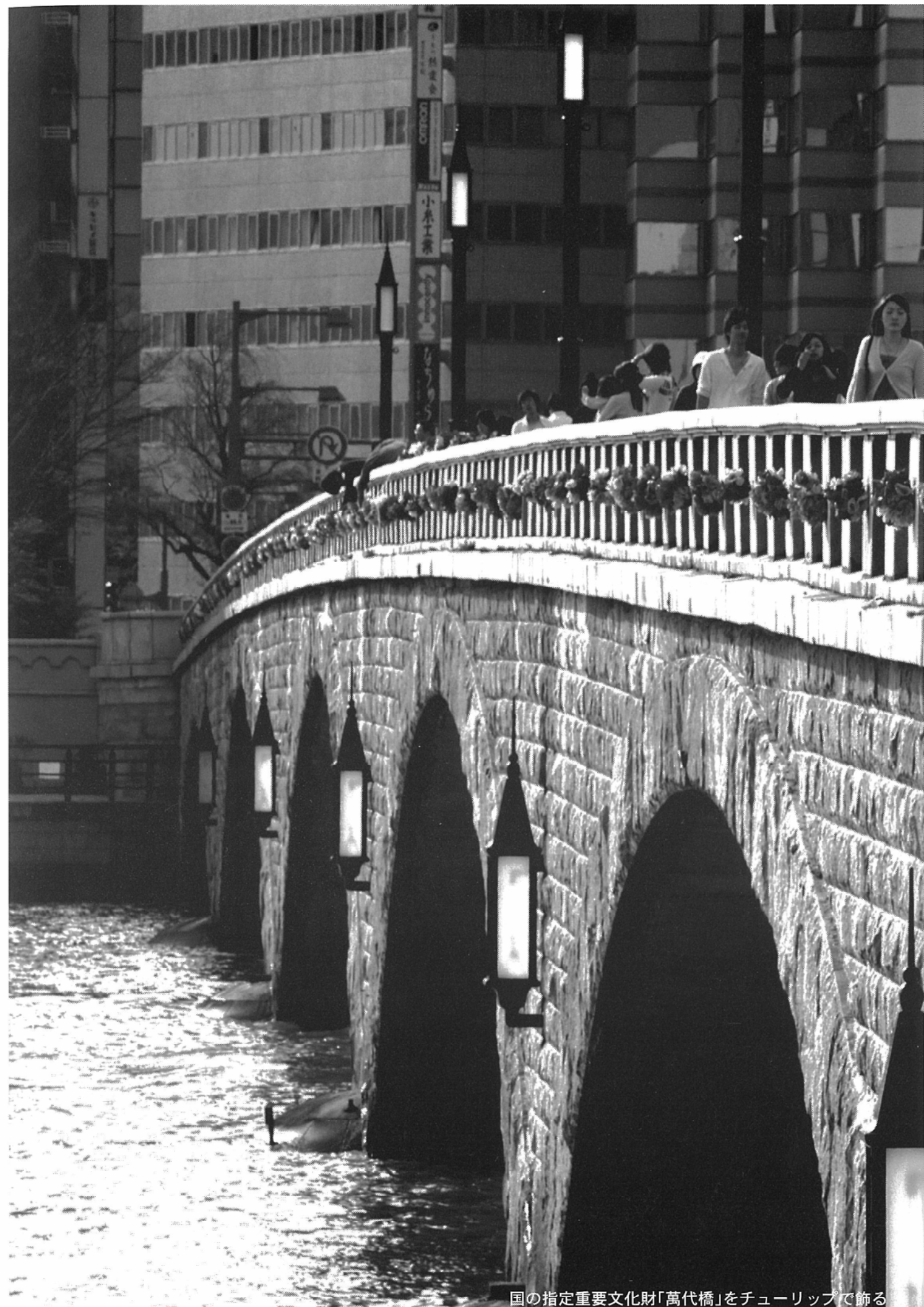
2  
第2分科会

3  
第3分科会



4  
第4分科会

5  
第5分科会



国の指定重要文化財「萬代橋」をチューリップで飾る

# 新潟湊と町民自治

## 1 第1分科会



### ■第1分科会スケジュール

- 08:40 万代シティバスセンター集合
- 09:00 明和義人ゆかりのまち歩き  
顕彰碑→愛宕神社・口之神社→西堀・西祐寺跡→牢屋跡→長照寺→  
奉行所跡→新堀→グランドホテル前乗船場  
案内人:にいがた寺町からの会 横山裕氏、皆川袈裟雄
- 10:30 新潟港クルーズ:グランドホテル前乗船【国土交通省監督測量船】  
萬代橋～海(海から港を見る)  
グランドホテル→みなとびあ→新潟造船→西突堤→沖合へ→新潟西港回航→  
グランドホテル前下船  
案内人:皆川袈裟雄、保坂芳樹
- 11:30 まち歩き:萬代橋、東やすらぎ提(信濃川景観を見る)  
案内人:保坂芳樹
- 12:30 昼食:割烹丸伊
- 14:00 分科会:新潟市歴史博物館「みなとびあ」セミナー室  
ミニ講義・学習会:各都市の類似事例、区政、自治協議会、鍋茶屋通の歴史  
講師:新潟市歴史博物館学芸課長 伊東祐之氏  
受付・サポート:市民の会の会
- 15:30 第1・2合同分科会:新潟市歴史博物館「みなとびあ」セミナー室  
テーマ:萬代橋、信濃川「新潟港の歴史と現在」  
信濃川クルーズとまち歩き体験から信濃川の歴史と景観を考える。
- 16:30 解散

### AREA MAP



第1分科会は「新潟湊と町民自治」をテーマに、「まち歩き」・「新潟港クルーズ」・「ミニ講義」の三部構成で行いました。参加者の皆さんより記載いただいた「ふりかえりシート」の感想とともに振り返ります。

### まち歩き

前日の火坂雅志先生の基調講演「新潟湊と明和義人」を受けて、明和義人:涌井藤四郎・須藤佐次兵衛ゆかりの跡を散策。明和義人顕彰の碑がある白山公園からまち歩きをスタートし、明和義人が祀られた口之神社、藤四郎のお墓のある長照寺などをめぐりました。

#### ●ふりかえりシート:「まち歩き」の感想

- 三度目の新潟ですが、幾つかに分けて街の特色を探ることは非常に面白いし、他の都市との相違点と共通点を知るのも面白いと思った。
- 明和騒動をはじめて知りました。新潟の町中をテーマにそって歩くという体験は貴重なものでした。皆川さんの説明が分かりやすかったです。
- 時間の制約があったせいか、早足になったことが気になりました。内容は良かったです。
- 細かい小路まで知っていたつもりでしたが、色々なところに石碑が建てられていたり、歴史ある建物が残っていたりと勉強になりました。住民がこのような活動を知っていれば、まち歩きがもっと楽しくなると思いました。
- 久しぶりに新潟の町を歩く機会に恵まれた感じ。少し風があったが快歩。
- 乗船時間があって少々忙しかったようです。
- 時間的にきつかった。
- 私は新潟の歴史に少なからず興味を持ち、「まち歩き」は数回多角的に参加していますが、本日は開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会2日目であり、特に住民自身によって決起・蜂起し、狼煙をあげた明和義人の涌井藤四郎・須藤佐次兵衛ゆかりの地の散策は非常に意義深いものがあった。新潟のおかれた現在と考え合わせ、温故知新、古きを知って新潟の現在・未来に活かしては…なんて思ったと思います。
- 歩く時間が多かった。説明の資料を添付して欲しい。
- 何回か「まち歩き」をしていたので、これといった感じはなかった。
- まずまず雨もなく暑くもなく丁度よいまち歩きでした。時間がなく急ぎ足だったため、県外の人には不完全燃焼ではなかったかと思います。
- 何回か歩いていますが、いつ歩いても新鮮な感じがします。

### 新潟港クルーズ

萬代橋西詰めのグランドホテル前から乗船し、信濃川から萬代橋や周辺の景観を眺め、新潟西港周辺回遊、かつて北前船が沖泊りしたであろう外海まで盛り込んだ約50分のクルーズ。国土交通省新潟港湾・空港整備事務所の全面的な協力のもと、監督測量船に乗せていただいたうえ、船内では同事務所の和賀広報室長から港の役割などの説明もしていただきました。

クルーズ後は萬代橋から周辺の景観まち歩きをする予定でしたが、雨が強くなったため残念ながら中止。割烹丸伊にて昼食をいただきました。

#### ●ふりかえりシート:「新潟港クルーズ」の感想

- 陸から、海から、川からそれぞれの景色を見られたのは有意義であった。
- 船に乗る機会も、海から街を見るという機会も滅多にないので、いい体験をさせていただきました。海に向かって「左が赤、右が白」と灯台が立っていることなどは初めて知りました。
- 良かったです。曇り空がちょっと残念でした。
- 天候が悪いというか、外の様子が分からず心残りです。海まで出られたことにビックリしました。
- はじめて間近に西港の風景にふれてよかった。
- 天気さえ良かったらと思いますが、信濃川から日本海まで出てとても良かったです。
- 漁港域まで行けてよかった。





- みなとまち新潟、信濃川・日本海ともに私たちの原点だ。日本海に出て、この海が5港に連なり、アジアの主要都市につながっていると意義深いものがある。政令指定都市・新潟が今日あるのは水の都、港の繁栄なくしては考えられない。日本海より日和山を眺望できたのは何よりの収穫であった。
- 外の風景を見ている時間がなかった。観光を考えて良い風景である。
- 新潟に住んでいても、今日のクルージングは初めてなので、すごく新鮮な感じがした。
- 水面から見ると、また違う景観を観察できて良かったと思います。
- 普段見ることが出来ない所が見られて勉強になった。

●ふりかえりシート:「昼食」の感想

- 美味しくいただきました。
- かなり良かったです。
- 先ずもって美味しかった。満足できた昼食でした。
- 美味しかった。
- まあまあ。
- 新潟の特産品、料理が用意され、他都市の方々も大変喜んで賞味されていたようで、何よりのご馳走だったと思われました。
- 価格の割に良かった。
- あまり美味しくなかったです。
- 新潟の素材を使ってお料理は大変美味しかった。
- Good!
- 大変美味しくいただきました。カキノモト家ではおひたし位なので美味しかった。



ミニ講義

午後からは、新潟市歴史博物館「みなとびあ」セミナー室を会場に、伊東祐之同館学芸課長を講師に「明和騒動の頃、新潟町の暮らし」と題したミニ講義を開催。

戦国時代から江戸時代にかけて兵農分離の支配体制が確立されてきたこと、宝暦・天明期は江戸幕府の支配体制の矛盾が顕在化し転換期になったこと、それが寛政期の大転換へ継承されたこと、これらの背景のなかで明和騒動が起こったことなど、分かりやすく明解にご説明いただきました。

●ふりかえりシート:「ミニ講義」の感想

- 昨日の講演を含めてのお話が面白かった。
- 率直に面白かったです。伊東講師の豊富な知識は勿論ですが、明和騒動の社会的背景、経済的な動きまで、分かりやすく説明していただき勉強になりました。
- 分かりやすく楽しかったです。
- 昔と今、新潟の人の「根」の部分は変わらないと感じました。
- しっかりした講義で有難かった。
- 明和義人の、歴史的・経済的背景について聞いて良かった。
- 普段あまり聞けない、江戸時代以前に遡って詳しく講義され、大変興味深く意義深いものがあった。江戸時代の矛盾に切り込まれ、新潟人の心意気に強くふれ、土農工商、新潟町民の心意気こそ現在の新潟人に活かされていることと思った。また、活かしてもらいたいと熱望する。
- 参考になった。
- 興味深く聴いた。
- Good!
- 歴史は奥が深くよく分からない。

●ふりかえりシート:「第1分科会」の感想

- 今後とも私たちの知らない人物をとりあげていただくと嬉しいと思います。
- 多分、私が最年少だったと思いますが、もっと若い人に参加してもらい、語り継が

なければならないし、そのために自分で何が出来るのか、街についてもっと考え、「誇りに思えるまちづくり」をしていきたいです。

- 特にありませんが、参加出来て良かった。ありがとうございました。
- 昨日の講演会と、このまち歩きコース、みなとびあでの講義と、フォーラムがうまくつながっていたと思います。
- 30人ちかくの人を、まち歩きで案内するのはなかなか大変だと思う。
- なんと言っても新潟の歴史のなかでも重要なポイントをもつ町民自治に焦点を絞り、多角的に切り込まれたことに敬意を表します。明治元年開港された新潟の位置付けとも関連した「みなとまち新潟」の益々の発展を望まざりません。
- 他都市の参加者が少なかった。皆川さん一人で大変であったと思います。
- 実行委員会の方々の大変な事前準備のお陰で大変勉強になりました。

【第1分科会 資料】

明和義人、涌井藤四郎・須藤佐次兵衛を偲び、住民自治の原点を探る。

●事件の発端

- 1767(明和4)年8月、長岡藩が、町役人を除く新潟の町民に1500両の御用金をかけてきた。
- 新潟の町民は、生活が苦しいなかで750両をなんとか納めたが、残りを納めることが出来なかった。翌1768(明和5)年、涌井藤四郎らは、町民代表を西祐寺へ集め、残りをどうやって納めるか相談した。その結果、「利子分の180両は上納する。残りの750両は景気が回復するまで猶予をいただきたい」という嘆願書を提出することで意見がまとまった。
- この請願に対して、八木屋市兵衛が町役人へ密告したため、涌井藤四郎が再び町民を集め対策会議を開き、次のような結論を得た。
  - ①御用金納入の延期。
  - ②税金を取り立てるときは、各町より3人ずつ立会人を出す。
  - ③町役人は公選制にする。
  - ④仲金(すあいきん)の納入は隔年とし、その間は貧困者への拝借金とする。
- この会議の状況を、またもや裏切り者が奉行所へ密告したため、指導者の涌井藤四郎が捕らえられ投獄された。

●町民の蜂起

- 藤四郎が投獄されたことを知った多くの新潟町民たちの怒りは町全体へ広がり、藤四郎の投獄から数日後、本明寺の鐘を合図に多くの新潟町民が日和山へ集まり「悪役人をたたきつぶせ、涌井を奪い返せ」と叫びながら奉行所へ押し寄せた。
- 一揆勢の先頭に立った6人の黒装束の人物は、「個人的な恨みで乱暴狼藉をするな」「殿様からの拝領物や御紋のついた品物には絶対に傷をつけるな」「表から入って裏にぬけるな」「町民のための一揆だから、邪知貪欲の役人をみたら十分に恨みを返せ」と、注意しながら指揮をとった。
- 勢いを増した一揆勢は、奉行所側を追い詰め敗走させ、密告者の八木屋市兵衛をはじめ町民たちを普段からいじめていた豪商や悪役人の家を打ちこわした。
- 奉行所側は、町民たちを鎮静化させるために米価の引き下げを行い、遂に涌井藤四郎を釈放せざるを得なかった。しかし新潟町民の怒りはおさまらず、翌日、再び一揆をおこし、古町通や榎屋小路などへ押し寄せた。藤四郎の説得で奉行所や町会所の破壊は免れた。
- 最初の打ちこわしは15軒、二度目の打ちこわしは9軒で、いずれも町民をいじめていた豪商や町役人であった。

●町民自治の実現

- 町役人が不在となった新潟町では奉行所の支配を受けず、涌井藤四郎が中心

となって町の政治を運営することになった。

- 藤四郎は各町内の代表者を勝念寺に集め、長岡藩の取り調べに対し、個人的な答えをせず「涌井藤四郎に聞いてください」と指示する口上書(連判状)を作成・配布した。
- それ以後、次の諸政策を二ヶ月間にもわたって新潟町で実行した。
  - ①食糧・物価政策=米価を引き下げ、窮乏した町民に米を半額で売る。人別調査により各戸に配給券を配布し公正を図った。また酒、豆腐等の食料が三割から四割安の値段で売り出された。
  - ②金融政策=質屋の利息を三割から二割に引き下げ、一町に一軒ずつ仮の質屋を設け、窮乏した町民たちへ金銭的に保護対策をはかった。
  - ③医療政策=二回の打ちこわしで負傷した町民に170両の治療費を支出した。
 治安施策=町民による自警団を組織し、夜回りや辻番人による巡回警戒を行い、自らの手で新潟町の治安を守った。
- 長岡藩は、この事態を放置できず藩兵を送り込んだが、藩兵の荷物(武器等)を船から降ろす作業は「藤四郎の承認なくしては応じない」という荷役拒否で対抗し結局帰藩せざるを得なかった。
- 長岡藩は、藤四郎を新潟町の総代として承認し、涌井藤四郎を頭取として交渉せざるを得なかった。これで涌井藤四郎は名実ともに新潟町の実権を掌握し、藤四郎のもとで町民が固い団結をするなかで新潟町の自治運営を守った。

●事件の結末・自治の崩壊

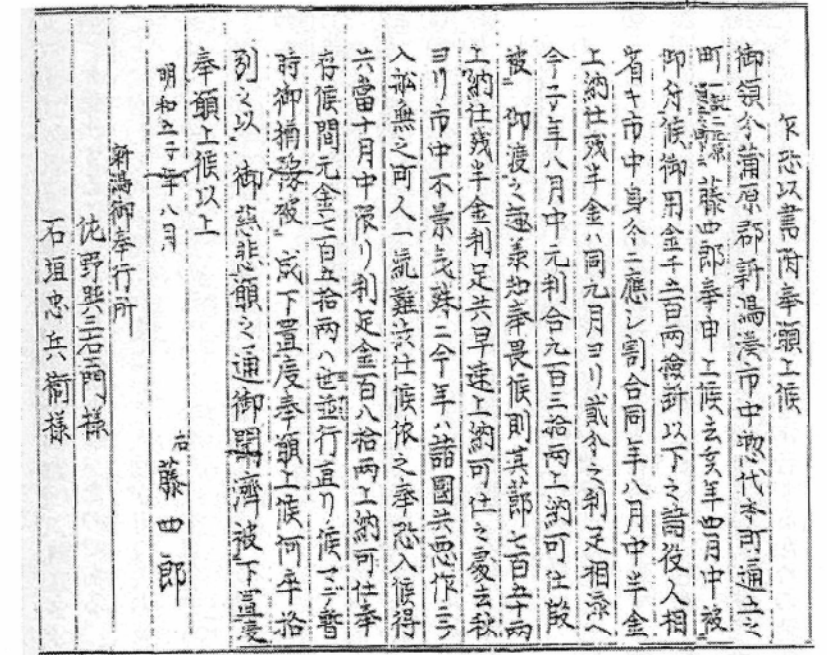
- 長岡藩は、新潟町の自治運営をこのまま藤四郎にまかせておくわけにはいかず、徐々に巻き返しをはかってきた。
- まず長岡奉行所出頭の今泉岡右衛門と御勘定頭飯田久兵衛は、新潟町民の怒りを抑えるため、新潟町へ米千俵の配給を決めた。藤四郎はその米を町中へ配分した。
- さらに藩は、最初に打ちこわしにあった奉行や町役人を長岡城下に呼び出して責任を追及し、次に一揆の主な関係者を次々と呼び出した。なし崩し的に町民の団結を弱めるという巧妙な手段をとって、藤四郎も訊問に呼び出された。その際、返答に不始末があったと勝手な理由をつけて藤四郎を投獄してしまった。
- 長岡藩が取り調べで特に力を入れたのは、一揆の指揮をとった黒装束の正体をつかむことであったが、結局正体がかめなまま丸二年かかった取り調べは、1770(明和7)年8月20日判決が下った。一揆の責任を一身に受けた涌井藤四郎とその片腕となった須藤佐次兵衛に死刑を命じ、二人は市中を引き回されたあと、鍛冶小路の牢屋で処刑された。時に藤四郎は55歳、佐次兵衛は70歳であった。

●明和騒動の意義

- 明和騒動は結果的に町民の側が「敗北」をしてしまったが、特にこの騒動で見逃せないことは、自らの手で町政を治め、日本の歴史のなかに「自治」を実現させた数少ない事件であったということである。
- 重要なことは、「自治」を実現させていくために、藤四郎は下からの話し合い(寄合=集会)を常に重視したことであった。これを支えた背景に、民意を重視した確固とした町政組織があった事も見逃せない。
- 政令市になった新潟市は、行政的に8区編成になり区ごとに自治協議会が設置されている。  
「区自治協議会は、区民等の参画を通じて、多様な意見を調整し、その取りまとめを行い、区民等と市との協働の要となるよう努めるものとする。(新潟市区自治協議会条例第7条)」と定められている。ここには230年前の、明和義人の心情が謳われていると受けとめたい。



明和義人顕彰之碑(白山公園)の碑文拓本



嘆願書(「明和旭湊俚諺」より再構成)



# 川がつくった 人の営みと物流

## 2 第2分科会



### ■第2分科会スケジュール

- 09:00 朱鷺メッセ集合
- 09:30 新潟港クルーズ:朱鷺メッセ前乗船【国土交通省監督測量船】  
萬代橋～海、沼垂浜、沼垂山、沼垂の牧場(畜産)  
空港を見て、JR駅と港と空港のアクセスについて  
グランドホテル前下船
- 10:30 まち歩きオークラホテル前で景観説明→萬代橋→やすらぎ提
- 11:30 今代司酒造見学
- 12:00 昼食:中央図書館研修室(沼垂発酵食品弁当)
- 13:00 ミニ講座:栗ノ木川の生涯  
講師:斎藤栄路
- 14:00 堀川醸造見学
- 14:50 山の下タワー(沈埋トンネル堅孔)見学
- 15:30 第1・2合同分科会:新潟市歴史博物館「みなとびあ」セミナー室  
テーマ:萬代橋、信濃川「新潟港の歴史と現在」  
信濃川クルーズとまち歩き体験から信濃川の歴史と景観を考える。
- 16:30 解散

### AREA MAP



分科会当日。午前中は、曇りですがなんとか持ちそうで一安心。朱鷺メッセから新潟港クルーズに出発です。

船に乗るとワクワクするのは、幾つになっても同じです。この船旅は一番の大人気でした。波も無く揺れなかったことも幸いしたようです。風向きがいつもと逆とのことで、波は港内よりも港外の方が穏やかでした。

監督測量船もご協力いただいた国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所の吉田所長より、新潟港についての説明をいただきました。さすがに専門家です。知識量も違い、感心して聞き惚れました。

ここで新潟港クルーズの見所を紹介します。

#### 【万代島】

万代島はかつて信濃川の中洲で、川蒸気船の通路として中央付近に運河が掘られていました。また、万代島飛行場が設置され萬代橋渡り初めにはこの飛行場から飛行機が飛び立ち宙返りなどの曲技を披露しました。

#### 【鮮魚市場】

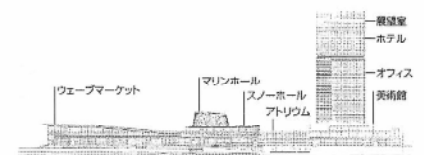
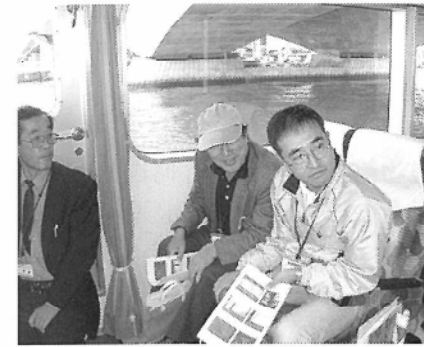
内陸の大江山に移転し、跡地には市民市場が開く予定になっています。今は水産物揚場だけが残っています。

#### 【中央埠頭】

国際旅客ターミナルがあり、北朝鮮の貨客船がここから出ていました。

#### 【朱鷺メッセ】

万代島ビルは高さ140.5mの31階の超高層ビルで、展望室は地上約125mの最上階にあります。全体は船をイメージして設計されています。佐渡汽船乗船場と朱鷺メッセを接続する連絡通路が突然落下して全国ニュースになりました。芝生広場の白い卵形のイタリア大理石は「天秘」安田侃作で自然に宿る静けさを表現。また亀裂の入った岩石は「灯台」ツイ(中国)作で、光と霧が出て未来への文化の灯台が表現されています。



#### 【佐渡汽船乗場】

当初は対岸の新潟島側にありましたが、1981年7月に現在地に移転。1977年に日本初のウォータージェット推進式水中翼船「ジェットフォイル」(ボーイング社製)による定期航路が新潟～両津間に就航。1989年国産初(川崎重工製)のジェットフォイルが就航。

佐渡汽船(株)は1932年に佐渡航路で競合していた商船会社3社を経営安定の見地から新潟県の資本参画のもと統合して成立。当初から半官半民で設立された日本最初の第三セクター企業です。

#### 【臨港埠頭】

元は健康社が経営する牧場で、新潟市での牛乳の拡販に務めましたが、その後埠頭に改築され、現在に至っています。民間経営は全国で唯一のものです。

#### 【石油タンク群】

新潟地震の時は、萬代橋の背景で黒い煙をあげて燃える石油タンクの写真が全国に配信されました。自衛隊の飛行機から消火弾を投下しましたが、鎮火には効果がありませんでした。

#### 【沼垂浜、沼垂山、沼垂川】

かつて臨港埠頭から飛行場までのあたりは「沼垂浜」と呼ばれていました。ここには外国船の監視のため新発田藩の番所が置かれていました。「沼垂山」は工場地帯にある高台の辺りを言います。「沼垂川」は栗ノ木川の沼垂での別名です。このように、沼垂の人達は地域を自慢にしていました。

グランドホテル前で下船。萬代橋を歩いて渡りながら、信濃川の景観や近年建設が急増しているマンションの高さ制限などを説明。船は揺れなかったのに陸では風が大変強く、ハンドマイクの説明も聞き取りにくかったと思います。





雨が降ってきましたが、予定地にバスがおらず、誘導などで雨の中を少し歩くことになりました。左の写真は、バス時間まで時間があるので、やすらぎ堤の上で信濃川の風景を無理矢理見てもらっているものです。

バスで、今代司酒造に行き酒蔵見学です。出来上がりのお酒を試飲させていただき、いい気分になりましたが、外はかなりの雨。急遽8人乗りのワゴン車で中央図書館までピストン輸送することになりました。

中央図書館では、待ちに待ったお弁当です。お弁当屋さんから発酵食品の説明をしてもらう予定でしたが急遽キャンセル。どこに発酵食品が使われているか不明で興ざめです。説明があればもっとおいしくいただけたのに……。

第2分科会のメインであるミニ講座「栗ノ木川の生涯」でも手違いで時間が足りなくなりました。直前点検が必要と改めて認識。

バスに乗り、「発酵食品の街・沼垂」を代表して、堀川醸造の味噌蔵を見学。その後、沈埋トンネルの山の下タワーを見学して、歴史博物館に無事に到着。時間的に余裕が無いプログラムだったうえにトラブルもあり、参加者の皆さんは消化不良だったろうと反省しています。《ゆったり、ぬったり》が一番ですね。

### 栗ノ木川の生涯(ミニ講座)

亀田郷は、信濃川・小阿賀野川・阿賀野川・通船川に囲まれた海拔0mの低湿地であり、最大5mにもみえない自然堤防に囲まれた輪中に位置し、ちょうど「皿のような地形」となっています。「栗ノ木川」は、そこを流れる唯一の河川として、亀田郷の灌漑用水・排水路としての役割はもとより、沼垂の町を守り、育て、生活を支えるとても重要な川でした。

栗ノ木川は、信濃川水系の一級河川(信濃川の2次河川)で、延長は6,855m。下流部(山ノ下閘門～鳥屋野湊合流点の約2.9km)と上流部(鳥屋野湊合流点～峰橋の約4km)に別れており、上流端は用排水路等となっているため源流はありません。

その名前の由来には、「川に栗の大樹があった」、「河川改修の時に栗の木が沈んでいた」、「汚れた水(悪水)を吐き出すために掘った排水溝=穿り貫き川(クリヌキガワ)」など諸説があります。

明治28年に約2kmの新栗ノ木川が完成すると、昭和42年には水害防止の陳情を受けて旧栗ノ木川の一部は埋め立てられ、下流部分は「水の無い川」となります。

昭和45年には、「みなと大橋」に接続する道路として重要な役割を担うべく道路工事が開始され、昭和48年に一部開通しました。

その後、平成4年には北陸自動車道及び新潟バイパス等の広域幹線道路と新潟西港周辺地域を結ぶ地域高規格道路「万代島ルート線」として都市計画決定されました。平成14年に萬代橋下流橋「柳都大橋」が完成し、新潟島側は東堀通まで暫定的に工事が進められていますが、沼垂側は住民の反対により中断しています。

また、栗ノ木道路は、万代島ルートの法線を利用して栗ノ木バイパスの混雑緩和と笹出線との交差点立体交差化を目的として、紫鳥線より少し北から明石通までを拡幅するものですが、平成20年度からの新潟駅立体交差化事業と関連して事業が進められています。

沼垂には、大正時代に築港された新潟港による「海運」、新潟県内で2番目に設けられた鉄道による「陸運」、飛行場による「空輸」、そして、栗ノ木川による「舟運」が揃い、町の経済の基盤を支えてきました。

川蒸気船が行き交った栗ノ木川は、関越自動車道と福島、山形への結節点への接続道路に変わりましたが、その重要性は変化していません。

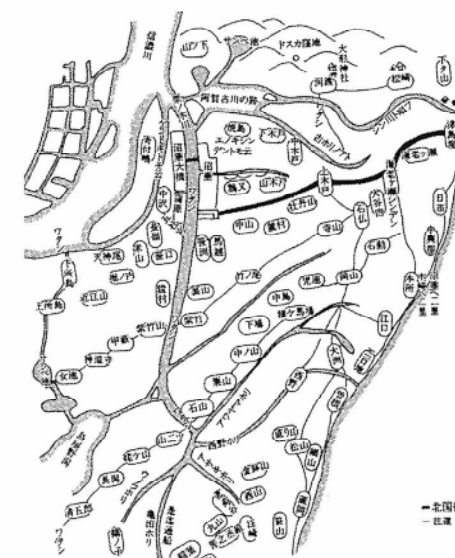
かつての自然豊かであった川が、現在全国有数の交通量を誇る道路となった栗ノ木川の変遷は、そのまま経済の変遷と重なっていると同時に、排気ガス等により地球温暖化や自然破壊を引き起こしていることも、現在の様々な問題を象徴しているように思



えます。

亀田郷という巨大な沼地の唯一の川「栗ノ木川」は、そこで暮らす人々の生活を支え、舟から車へと移行するに伴いその姿を変えることで、町は発達してきましたが、その最大の貢献者は現在矢板で囲まれた細い水路と埋立てによりすっかり忘れ去られている状況です。

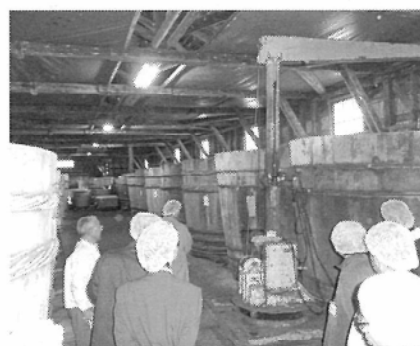
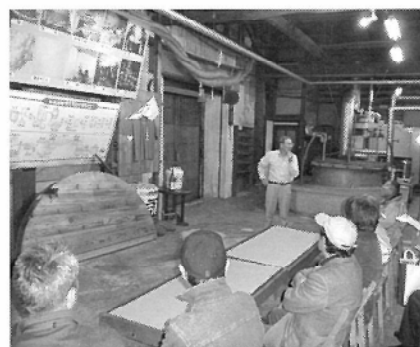
ミニ講座では手違いで準備に時間がかかり十分な説明ができませんでしたが、栗ノ木川の生涯を一度立ち止まって考えることが今回のテーマでした。また、水運・鉄道・飛行場・道路・工場が集中している沼垂が、なぜ今衰退しているのかを考えるきっかけとなれば大変な喜びです。



栗ノ木川図(1818年)



昭和30年代後半の栗ノ木川







## 【第1・2合同分科会】 萬代橋、信濃川 「新潟港の歴史と現在」

■担当／萬代橋ファン倶楽部

第1・第2分科会で午前中に行った新潟港クルーズや萬代橋周辺のまち歩き体験から、近年信濃川沿いに建設が進む高層マンションによる諸問題や新潟港や信濃川、萬代橋周辺の景観まちづくりのあり方について考えました。  
また、各都市から水辺を活かした景観まちづくり事例を紹介していただき、今後の課題を討論しました。

日時／2007年11月10日(土)15時30分～

会場／新潟市歴史博物館「みなとびあ」2階研修室 参加者64名

司会／保坂芳樹(萬代橋ファン倶楽部)

コーディネーター／横山裕氏(萬代橋フォーラム事務局)

パネリスト 横浜市／渡邊曜氏(BankART1929)

神戸市／奈良山貴士氏(神戸元町商店街まちなみ委員会)

長崎市／堤勝彦氏(大浦青年会)

新潟市／杉山道男氏(萬代橋と信濃川の景観を守る右岸市民の会)



### ■みなとまち・水辺の景観まちづくりの事例紹介と課題

【横浜市】 ～BankART1929の活動から～

☆『BankART1929』…2004年から活動。元銀行、元倉庫を改造し拠点として活動している。

☆『新潟花ジャック』…新潟から運んできたチューリップを使って“花イカダ”を作り川から海へ流す。

☆『モボ・モガを探せプロジェクト』…昔の写真を探すことによってお年寄りとのネットワークを構築しようというもの。馬車道駅での展覧会、本の出版。

☆横浜で盛んに行われている『モボ・モガを探せプロジェクト』を開港5都市でも行いたい。各都市で少しずつ動きが出始めている。共同で行いたい。

【神戸市】 ～水辺を活かした景観まちづくり活動～

☆ 港の価値を活かした街づくりを推進中。

☆ 駅の名前を変えてもらった。

☆『みなと元町タウンオアシス構想』震災の年に発足。

・港と街をつなぐ ・回遊性

キーワード～港の街並みと元町の街並み～

☆ 道に様々な愛称を付けた。…《回遊性の向上》

☆ 港と元町の連携が取れてきた。

☆ 高層マンションの増加

・地元との協議を必須条件にした。

・1階には店舗を入れ、街並み景観に沿った計画。

・マンション住民は全員自治会に入る。

→その結果として相乗効果が出ている。

【長崎市】 ～水辺の活用法～

☆ 新潟と長崎はこれまで接点がなかった。

☆ 中越地震の時に募金活動をした際、新潟の人の郷土愛に感心した。



☆ めがね橋のある中島川→水害によって石橋群の多くが損壊した。

☆ 水辺の森公園について。

☆ 川の周りには街がある。水があると“場”が落ち着く。→川と海をきれいにしていくなさ。

☆ 水辺の活用法→水辺の森公園の一例。

【新潟市】 ～信濃川沿いの高層マンション～

☆ 景観ガイドラインの策定

→駆け込み着工により3棟の高層マンション(66m、85m、50m)が建設されることになった。

☆ 中央区→都心が賑わう水辺の街

☆ 市の策定プラン

分権型協働都市、その他

→現実には河畔マンション群の中には、市と国から8億もの助成を受けたマンション建設事業もあり、住民を困惑させている。

【提言】

大切なことは行政が情報公開を早く行い、住民に問うこと。基準を満たしていれば良いという問題ではない。長期的な視野を持つべきだ。また、企業は社会的責任を考えるべきだ。

市民は横浜中華街(マンション)、東京都文京区での住民活動などを事例に、新潟市では萬代橋が重要文化財指定される際、市民がこぞって寄付金を集めて橋側灯を復元した事例から、もっと住民発動のまちづくりをするべきだ。

【意見交換】

● 横浜市も東京都でも高層マンション問題はある。これによってヒートアイランド現象が起きている。環境面からも考えていくなさ。

● 住民vs業者ではなく、もっと大きなレベルで話し合っていかなければならない。

● 神戸市ではマンションが出来てどう変化するか?

→神戸市では建築確認よりもかなり前にコミュニティに話があり、自治会・商店街のチェックが入り、納得が行くまで話し合う。

→しかし、これが可能なのは自治会・商店会がしっかりしているからである。行政も“間”に入っている。

● 地域の活動の母体がないと困難である。

● 予想以上に時間が足りなかったが、かなり活発な意見交換が出来たと思う。これからは“協働”がキーワードではないか?マンションが街の営みにどう寄与していくか。行政と市民・民間の協働に対する意識改革が不可欠ではないか。

# 食と景観

～行って、見たい! 食べたい! 触れてみたい!～

# 3

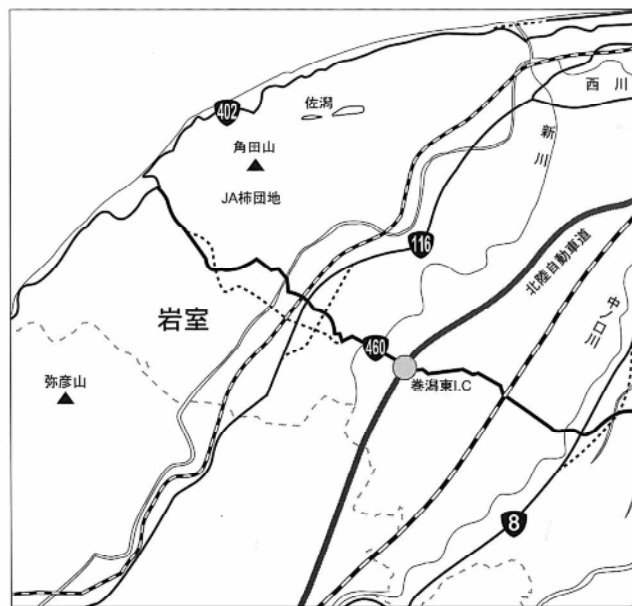
第3分科会



## ■第3分科会スケジュール

- 08:40 万代シティバスセンター集合
- 09:30 JA柿団地見学 案内人:西蒲区産業観光課 久保田春一氏
- 10:00 夏井のはさ木見学 案内人:西蒲区産業観光課 久保田春一氏
- 10:50 クライミングで弥彦山山頂へ  
越後平野田園景観を眺める。案内人:西蒲区産業観光課 久保田春一氏
- 11:50 宝山酒蔵見学(お土産購入) 案内人:宝山酒造/渡辺さん
- 12:30 まち歩き:岩室ウォッチング(4班に分かれて)  
案内人:小松屋 渡辺紀夫氏
- 13:00 昼食:岩室温泉伝統文化伝承館  
(かつぼうぎ隊による地場産料理、地元の海・平野の幸)  
案内人:西蒲区産業観光課 久保田春一氏
- 13:20 岩室菖句披露 (岩室温泉芸妓置屋組合)
- 13:40 柿の焼酎漬け体験(お土産)
- 13:50 講演会:岩室の歴史を語る(新潟弁を交えて)  
講師:小松屋 渡辺紀夫氏
- 14:10 ワークショップ・発表・意見交換会(各班に別れ)  
進行:高松智子/講師:小松屋 渡辺紀夫氏
- 15:40 伝承館出発  
日本海へ沈む夕日を眺めながら新潟市街へ
- 16:30 万代シティバスセンター着・解散

## AREA MAP



## ■柿団地、夏井のはさ木、弥彦山山頂、宝山酒造

11月10日(土)、曇り空を気にしながら、8時40分集合の第3分科会岩室班は、参加者33名を乗せバスは万代シティを出発しました。越後平野を眺めながら西蒲区(旧巻町)のJA柿団地に向かいます。

車中では、リーダー柳澤さんの挨拶の後、笠原さんからスケジュール、高松さんからはテーマである岩室を象徴する「ほっ!」をまち歩きでウォッチし、カメラに収めてワークショップを行う旨の説明があり、早速参加者にA・B・C・Dの4班に分かれていただき、2個ずつのインスタントカメラが渡されました。

その後は地元西蒲区産業観光課の久保田さんにマイクをバトンタッチ。巧みな語りでご当地ソング等を織り交ぜながらのご案内によって、車中は曇り空も吹き消すかのような和やかムードとなりました。

山の中腹まである柿団地を後にして、夏井地区のはさ木を見学。越後平野ならではの誇れる景色、藁によるアートを見学後、クライミングで弥彦山山頂に登りました。弥彦山頂上ではついに雨になってしまい、傘を差しながら越後平野を眺めることになりました。雲間よりみる越後平野は他県からご参加いただいた皆様にはどの様に映ったのでしょうか。

弥彦山を下り、宝山酒造さんの酒蔵を見学。おいしいお酒を試飲させていただき、心も体もほんのり温かくなって、ウォッチングに備えます。

## ■まち歩きウォッチング

さあ岩室温泉街をウォッチ!

雨の中、地元青年団の案内により、焼きたての岩室名物手焼きせんべいをかじりながらのまち歩き。各班それぞれ思い思いの「ほっ!」を一生懸命カメラに収めました。

## ■伝承館・昼食

芸妓さんの鍛練場「伝承館」に到着。東の空には滅多に見ることができない美しい虹の大橋が低くかかっています。雨上がりの光の屈折による自然現象の美しさに、皆でしばし見とれ、とても幸せな気分になりました。

伝承館に入ったら、お待ちかねの昼食。地元かつぼうぎ隊による海・平野の幸を贅沢に使った地場産手料理をお腹いっぱいいただきながら、岩室地区の伝統芸能である岩室菖句を堪能。これまた至福のひとつでした。

昼食後は、久保田さんに柿の渋抜き説明を聞きながら焼酎漬けを体験。お土産として持ち帰り、一週間後には美味しい柿が食べられるそうで、とても楽しみです。

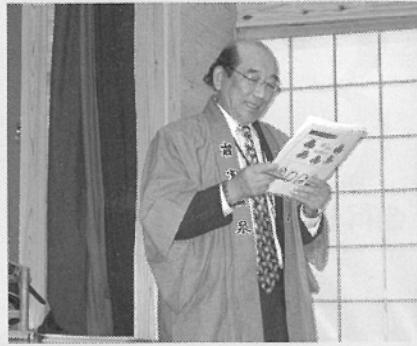
## ■講演会・ワークショップ

すっかりお腹も満足したところで、いよいよ講演会。地元小松屋の渡辺紀夫さんより、新潟弁を交えながら岩室地区の歴史を興味深く語っていただきました。ワークショップでは、現像した写真をもとに各班に分かれて意見交換しながら、それぞれが感じた岩室の「ほっ!」をまとめて、班毎に発表しました。それぞれ工夫を凝らしたまとめで、非常に良い意見や提案まであった班もありました。この成果が今後の岩室のまちづくりのヒントの一助になれば幸いです。

- 【A班】磯崎善彦/伊藤弥生/大石隆/大石富美子/笠原一夫/加藤健二/千明えつ子/渡辺敬夫
- 【B班】栗間道雄/車和久/斎藤彰男/原田宏子/藤間昭夫/藤間小夜/本間美智子/柳澤茂
- 【C班】飯間富美子/小田静枝/川崎隆/高田友彦/高松智子/角田昇三/仲井昌之/巻口あさ子
- 【D班】大岩勝衛/笠原百合子/柄沢平志知/後藤美津/柴田恭郎/野村勝/山根ヨリ子/米森勝行



# Workshop



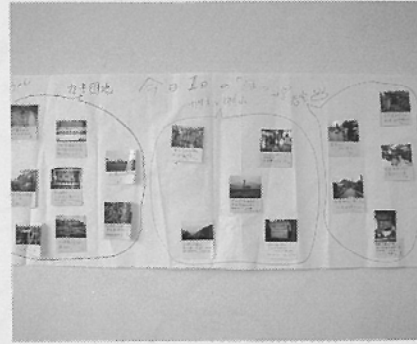
【A班】磯崎善彦／伊藤弥生／大石隆／大石富美子／笠原一夫／加藤健二／千明えつ子／渡辺敬夫



【B班】栗間道雄／車和久／斎藤彰男／原田宏子／藤間昭夫／藤間小夜／本間美智子／柳澤茂



【C班】飯間富美子／小田静枝／川崎隆／高田友彦／高松智子／角田昇三／仲井昌之／巻口あさ子



【D班】大岩勝衛／笠原百合子／柄沢平志知／後藤美津／柴田恭郎／野村勝／山根ヨリ子／米森勝行



## 感じた「ほっ！」

- 芸妓さんの踊りに「ほっ！」
- 庭先の潤い歩
- 北国街道・北陸街道のデザイン石は歴史を知っている
- 個人の力で豊
- かつぼうぎ隊、おいしい食事に「ほっ！」
- できること訪
- 行ってみて驚いた!味よし・人よし・自然よし ホッ!!岩室
- おいしいものでホッとする一時逢、芳
- 岩室の子育て地藏さん
- 残しておきたい店づくり保、歩、芳
- 明治天皇御巡行御休所ホテル「高島屋」
- 新旧のまじりあった街並み歩、保、訪、逢
- 酒蔵の若おかみの心意気がすばらしい!
- 守りたいモノ宝、保、惚(れ)
- 伝統技術の継承の苦心
- お客様へのおもてなし逢、訪、保
- 日本人らしい飲み風景が楽しい
- 道路のサイン歩、灯
- あつあつせんべい ごちそうさま
- 自然のうつくしさ峰、包、豊
- 日本古来の味覚で「ほっ」
- 食べるおいしいホッ
- 新潟の伝統景観で「ほっ」
- 岩室センベイ昔からあったセンベイたべてホッ
- たき木がいっぱいですね 冬はあったかいゾ ホッ
- 人の優しさホッ=手作りのおにぎり
- 冬のソナタでなかった冬のアヒルでした学生さん!!
- 海と山が一度に眼に入る風景
- 芸者さんのそぞろ歩き「ほっ」
- 温泉街、木造りの家が似合う通り
- 岩室温泉街には風情のある旅館が多く「ほっ」
- 岩室温泉、消火栓ボックス 街を守る安心
- 岩室温泉街のお菓子処で一息「ほっ」
- 山麓の景色が美しい
- 京都大原三千院恋にやぶれた女が1人 蛇の目につくばい いいじゃないホッ
- せんべい焼き実演はいい
- 冬の準備でしょうか 暖ったか「ホッ」
- かわいいデザインの発

### ◆提案

- まちの景観づくりを考えていくルールづくり。
- 自然の中の静けさの温泉、地域挙げての出迎え、街灯はおしゃれ。電柱が地中下になれば……。
- 岩室温泉の中を散策させるのなら「カリ」や「ダイロ」を生かすものを、もっと大きく目立たせる。また、歩道を設けて休めるベンチや足湯等あった方がよい。点と点を生かせる方法を!!



# Tour Album

## ■日本海の夕日

大変有意義であった一日も終わり、かつぼうぎ隊、岩室の芸妓さん、久保田さん、渡辺さんに見送られて帰路に。

日本海に沈む夕日と、くっきりと見える佐渡を眺めながら、バスは新潟市街へと向かい、予定どおり万代シテイに到着。

当日は1人の欠員も事故もなく無事に終えることができました事、ご参加の皆様のご協力に感謝申し上げます。





# 水が育んだ 自然と食文化を体感

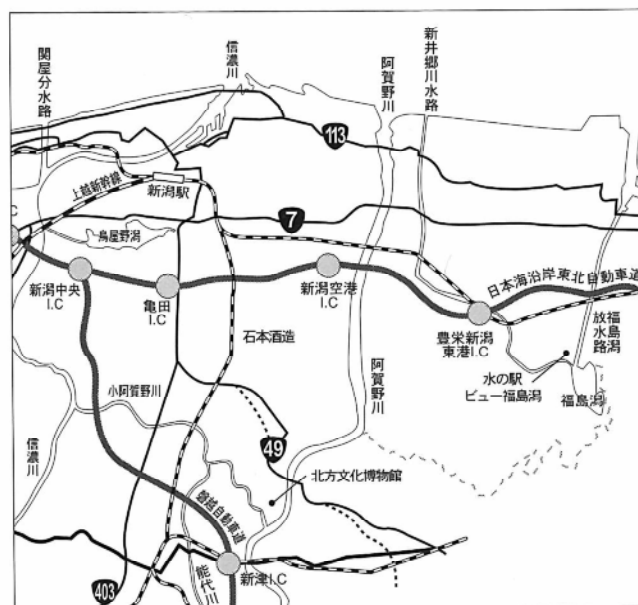
## 4 第4分科会



### ■第4分科会スケジュール

- 09:00 万代シティバスセンター集合
- 09:40 水の駅ビュー福島潟  
展望台からの眺めと園内散策  
講演会/ビュー福島潟館長 清水重蔵氏  
ハンカチ染め体験
- 12:00 昼食:北方文化博物館(味噌蔵)  
館内見学  
講演会/北方文化博物館 八代目当主 伊藤文吉氏
- 14:30 石本酒造株式会社  
竹穂垣(くね)見学  
酒蔵見学  
越乃寒梅の利き酒とお土産プレゼント
- 16:30 万代シティバスセンター着・解散

### AREA MAP



## 平野において2,000俵もの米を どうやって動かしたか

第4分科会はテーマを「水が育んだ自然と食文化を体感」とし、新潟平野の田園風景を眺めながら、新潟市北区・江南区の自然や、新潟の誇る文化に焦点を合わせ、合計23名で3カ所を巡ってきました。

最初に訪れたのが北区、水の駅「ビュー福島潟」です。新潟市東方に位置する福島潟は、中心地から程近いながらも、天然記念物の大型のガン「オオヒシクイ」をはじめとする渡り鳥の飛来地であり、また、自生するオニバスの北限でもある豊かな自然を残しています。そして、海拔が低く大河が流れる新潟の貯水池として、水と戦い、水と共に歩んできた近郊住民の営みと、密接に絡み合う歴史を持つ場所でもあります。

到着後はまず展望台上がり、まっ平らで水と緑がどこまでも広がる越後平野の風景を眺めていただきました。特に県外の方には、これこそがイメージしていた新潟の田園風景のようで、早速カメラを構えている方もいました。展望台ホールでは館長の清水重蔵氏より日本人がこれまで織り成してきた文化と自然とのつながりについて講義をいただきました。飛来するガンについて、その飛ぶ姿などが古来から歌に詠まれていたり、ガンにちなんだ言葉(がんどきや雁首など)が今でも多く残っていることから、いかに日本人の暮らしに鳥や自然が身近であったかということ。守るべき、伝えるべき潟との共生、そして暮らしに密着している水や自然との関係。かつて当たり前のように触れていた動植物などを、もう一度子供たちにとって身近なものにしていくことの必要性を熱心に語っていただきました。

福島潟では自然を活用してのイベントや子供たちの教育に力を入れており、楽しみながら学び、なおかつ自然を守る様々な企画を行っています。私たちは講義の後にそのひとつであるハンカチ染めを体験してきました。なぜハンカチ染めが自然保護なのかといいますと、豊かな草花の中に外来種であるセイタカアワダチソウが非常に強い繁殖力で増え続けているため、元来の種を守るために刈り取りをする必要があるそうです。ただし、その刈り取ったものをただ捨てるだけでなく、それを染料としてハンカチを黄色く染め上げる体験を通じて、自然保護に参加してもらう。さらにこの体験は「幸せの黄色いハンカチ大作戦」というイベントとして、名誉館長加藤登紀子さんの任期の終わる2009年に向けて、2009枚の黄色いハンカチをつなげよう、そして福島潟に集まり一緒に合唱をしようという、長期にわたり楽しみながら自然を守る活動となっています。私たちが2枚ずつ作って、1枚は記念に持ち帰り、もう1枚はビュー福島潟に託しておきました。参加された皆様にはぜひまた2009年に来ていただきたいと思います。

ハンカチ染め体験の後は、あいにく天候は悪かったのですが、実際に福島潟を散策していただきました。間近に渡り鳥を見ながら自然を感じ、昔の民家を再現して建てられたヨシ葺き屋根の「潟来亭」に入って潟周辺の生活に触れていただきました。後世に残すものは単なる田園景観だけでなく、潟とともに築かれてきたこの地の自然文化の継承も重要なテーマであることをビュー福島潟は伝えています。

続いて訪れたのが江南区にあります豪農の館「北方文化博物館」です。昼食会場を兼ねて訪れたこちらは、越後平野を流れる大河・阿賀野川の西岸旧横越町沢海に位置する、江戸中期より農業で身を起し、代を重ねるうちにやがて1,000町歩を越える広大な農地を持つようになった越後随一の大地主伊藤家の本邸です。3万俵余りという米を作っていたこの伊藤家が築いた巨万の富は、8,800坪の豪壮な屋敷と数々の調度品、陶器や美術品などのコレクションを在りし日のまま現在に残す博物館として、往時の豪農の暮らしを今に伝えています。

昼食会場の「みそ蔵」はかつて十数本の大きな味噌桶が並んでいたという蔵。こちらで昼食をとった後に館内散策にうつりました。同行するガイドから、あまりにスケー







ルの違う屋敷や庭園の造作についての説明や、当時の豪壮なエピソードを聞きながら、広大な館内や展示品を拝見。越後の農村文化の極みに触れ、驚きに包まれながら隔々までを見学してきました。

その後行われた八代目当主伊藤文吉氏の講演では、農地解放により広大な農地を手放した後、豪農の暮らしをそのまま文化として伝えるために博物館となったいきさつや、文化継承についての伊藤家の考え方を語っていただきました。戦後、博物館の先駆けとして歩み始めることになった先代の7代目当主と進駐軍ライト中尉の偶然の出会いや私邸を博物館として残すに至った戦後のエピソード。そして、日本の文化をこれからもずっと同じ方針のまま伝え続けるためには、館長や管理者がコロコロと変わる公立ではなく私立博物館でなければならないことの必要性など、長い歴史の中で築かれてきた伊藤家の信念をうかがい知ることができました。

最後に訪れたのが銘酒越乃寒梅で知られる「石本酒造」です。まずは外周を取り囲む立派な竹穂垣(くね)を拝見。第3回の新潟市都市景観賞を受賞したこちらの生垣は、季節を追うごとに鮮やかな青竹から乾いた枯茶色に様相を変える、情緒溢れる新潟の宝です。参加者からも酒蔵に入る前から賛美の声があがっていました。

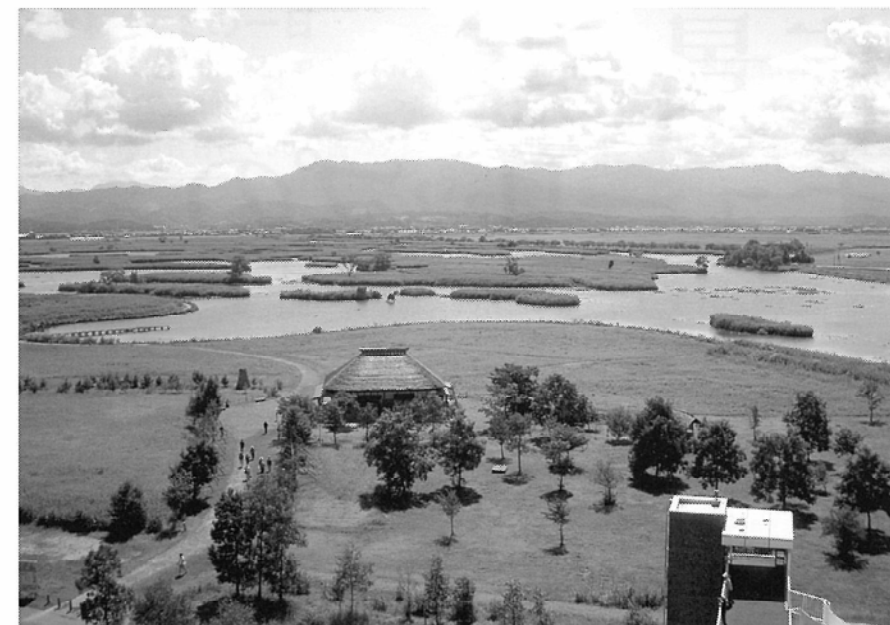
蔵内では2班に別れ、工場見学と利き酒を体験してきました。見学では生産のラインに沿って、精米、麴づくり、酒母づくり、醗酵、濾過といった製造工程を巡り、丁寧な酒造りをわかり易く説明していただきました。特に感銘を受けたのは、機械化されている工場とはいえ、全てを機械に任せるのでは無く、工程には必ず杜氏の目と手が加わること。機械を導入しても、見た目や香りから温度・湿度に至るまで、五感を全て駆使して酒造りを行う杜氏の技術は、昔となら変わることなく受け継がれており、新潟の誇る一流の酒造り文化に触れる貴重な体験でした。銘酒と評価される裏には、手作りの心意気を大切に、増産を求めめるのではなく変わらぬ味を変わらぬ量で造り続けるひた向きの姿勢が貫かれていることを感じ取ることができました。

会場を移して行われたお楽しみの利き酒では、なんと越乃寒梅を6種類もご用意していただいたの、滅多に体験できない贅沢なものでした。また、その場では石本社長からのお話で、今と違って名の売れていない時代から近隣の為だけに細々といい酒を造ってきたことや、蔵は機械の導入で近代化されてきたが生産量は昔と変わらないことなど、石本酒造の実直な方針をお聞かせいただき、さらに美味しさを増した利き酒になりました。県外だけでなく、地元の参加者にも新潟の銘酒の奥深さを味わっていただけたのではないのでしょうか。

こうして3カ所を廻ってきたわけですが、この分科会が伝えたかったことは、越後平野に広がる田園風景という景観には、その根底に人がつないできた文化や心が息づいているということです。新潟は開港五都市の中では異色の川湊です。そして、自然・生活・食といった全てにおいて、2つの大河の涯である越後平野と歩んだ長い歴史が今の新潟を築いてきました。

前回の長崎大会では歴史的建造物を残すために「まちづくりには人づくり」が不可欠だという言葉が非常に印象的でした。ここ新潟は中心部の街並みだけでなく周辺の田んぼや自然も含めて新潟です。そして、この地で暮らしてきた新潟人の営みから生まれた新潟の「水と緑と食」。後世にこれらをつなぐこと、すなわちこれからも地域文化を継承し続けるための人づくりこそが、これからの新潟のまちづくりの要となることをご理解いただけたと思います。

最後になりますが、ご尽力いただきました関係者の皆様、そしてなによりも各港からお越しいただいた皆様、本当にありがとうございました。また次回の新潟大会でお会いしましょう。





# 花景観・ チューリップのふるさと

# 5

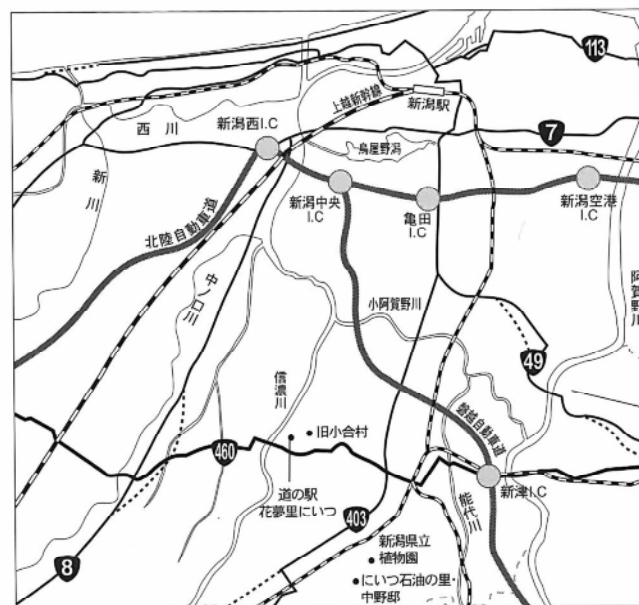
第5分科会



## ■第5分科会スケジュール

- 09:00 万代シティバスセンター出発
- 09:40 旧小合村  
チューリップ球根植え体験  
案内人:片岡道夫氏(造園業)、小田氏(農家) 協力:ちあきの会
- 10:45 道の駅花夢里にいつ  
日本チューリップ発祥の地記念碑見学
- 11:30 昼食:新潟県立植物園にて「にいつ食の陣お弁当」(割烹おくま)  
案内人:新津商工会議所 遠山博司氏
- 13:00 ミニシンポジウム「花の新潟になるには」  
コーディネーター 上杉知之  
基調講演 倉重祐二氏(新潟県立植物園副園長)  
パネリスト 新藤幸生氏(ちあきの会会長)  
井浦 豊氏(チューリップ球根生産者)  
中矢澄子氏(にいがた花絵プロジェクト初代実行委員長)  
戸田光一氏(秋葉区産業振興課)
- 15:00 にいつ石油の里・中野邸(もみじ園)見学
- 17:00 万代シティバスセンター着・解散

## AREA MAP



## 第5分科会 その一日

阿賀野川と信濃川に囲まれた田園地帯を、全国屈指の花き花木の里に導いた先人たち。実際に土に触れながらにいつ花物語を体験。チューリップの球根栽培発祥の地である旧小合村にて90年前のチューリップ畑を再現し、球根生産者と交流を深めました。

### 万代シティバスセンターにて受付

開港5都市より8名、新潟市一般参加者8名、にいがた花絵プロジェクト8名、計24名でスタート。

### 出発、信濃川に沿って移動

上杉知之(にいがた花絵プロジェクト)の案内ガイド付き。

### チューリップ球根植え体験

旧新津市小合村の小田さんの畑(小田小梅園)にて、小雨ぱらつく中、チューリップ球根植え体験。先に来て準備していたにいがた花絵プロジェクトと合流。ちあきの会の方々の協力で1反の畑に約3万球を植える。お土産にチューリップの球根と小田さんより菊の花束と手作りの小物をいただき、幸せ!



### 花夢里にいつ(道の駅)で休憩タイム

日本チューリップ発祥の地記念碑を見学。  
このあとどしゃ降りに…。



### 昼食/新潟県立植物園

昼食は割烹おくまの「にいつ食の陣お弁当」をいただく。  
案内人は遠山博司氏。(新津商工会議所)  
その後、植物園内を自由見学。

### ミニシンポジウム「花の新潟になるには」

※基調講演と4人のパネリストについては下に記載。

### にいつ石油の里・中野邸

案内人は中野氏。  
もみじ園見学。ちょっとした山登りでかなり時間をとる。でも紅葉はキレイ!  
少し遅れて出発。今度は阿賀野川に沿って移動。  
帰りも上杉知之(にいがた花絵プロジェクト)による案内ガイド付き。  
万代シティバスセンターに無事到着。もうすでに真っ暗! ネオン街で解散。



### ■ミニシンポジウム

「花の新潟になるには」 コーディネーター:上杉知之  
開会の挨拶

### 基調講演 「新潟 チューリップ物語」

倉重祐二氏(新潟県立植物園副園長) 1961年神奈川県横浜市生まれ。  
専門はツツジ属の栽培保全や系統進化及び園芸史。  
著書に「吉田千秋と植物」「日本の植物園における生物多様性保全」等。



### ①はじめに

- ・チューリップは昔はそう有名な花ではなかった。明治～大正～昭和になって有名になってきた。
- ・チューリップがどんな歴史をたどって日本に広がってきたのか。
- ・新潟がチューリップ普及の役割の中心を担ってきたということについてお話をしていきたい。

### ②チューリップ畑視察記念写真

### ③新潟県の花き園芸産業について

### ④チューリップの歴史

- ・ゆり科の球根植物で原産地はトルコ。
- ・16世紀／トルコ→ヨーロッパに導入。
- ・17世紀／「チューリップ狂時代」。(オランダ)

### ⑤チューリップが日本に入ってきたのは文久3(1863)年。

### ⑥江戸時代～明治時代

明治20年代に輸入。37年以降、日本海側ではじめて申し分のない状態で開花。

### ⑦小田喜平太という人

旧小合村の小田喜平太は大正7年にチューリップの試験栽培をはじめ、8年に中蒲原郡技手の小山重に将来有望であると説かれ、商業生産を決意した。  
同年オランダから100円分、数万球の球根を輸入した⇒この大正8年秋に植え付けられたチューリップが本邦における商業的な球根生産のはじまり。

### ⑧吉田千秋という人

『琵琶湖就航の歌』の原曲「ひつじぐさ」の訳詩作曲者として知られる吉田千秋は、歴史地理学の泰斗、吉田東伍の次男として明治28年に小鹿村に生を受けた。少年時代を主に東京で過ごしたが、大正4年6月に結核の療養のために小合村に帰省し、大正5年から回覧誌「AKEBONO」を発行した。  
この中の「花つくりの手控えより(1916年)」「花作り日誌(1917年度)」大正7年度園芸日誌の草稿には、大正5年から大正7年の間に数多くの植物を購入して自宅の庭で栽培したことや、その開花状況が記されている。⇒これらに、本邦におけるチューリップの商業生産の開始時期に関する重要な情報が含まれていた。

### ⑨大正時代のチューリップ

### ⑩昭和時代のチューリップ

### ⑪チューリップ生産が新潟の園芸にもたらしたもの

- ・西洋花きを産地化。
- ・高投資・高収益の生産。
- ・輸出を目的とした初めての花き。
- ・目的を変えて生きつづける…輸出から国内販売へ。球根供給地から付加価値の高い切花生産へ。

### パネリストの発言

- ・新藤幸生さん(ちあきの会会長)／会の活動紹介と吉田千秋について。
- ・井浦豊さん(チューリップ球根生産者)／球根栽培の現状について。
- ・中矢澄子さん(にいがた花絵プロジェクト初代実行委員長)／花絵を始めたきっかけ、めざしたものなどについて。
- ・戸田光一さん(秋葉区産業振興課)／花のまちづくりへの行政の取り組み等について。

### 会場から(質疑応答)

- ・インフィオラータについて。
- ・球根植えに対する御礼。



### まとめ「花の新潟になるには」

#### ・新藤さん

新潟の花がどのようにしてみんなに愛されてきたかを考えながら吉田千秋の過去を探って行きたい。

#### ・井浦さん

球根生産のピークは10年前だった。生産量は3分の1に減った。高齢化が進み後継者の育成が必要。

#### ・中矢さん

「花絵」がやろうとしたことを思い返してほしい。

○花で街を彩ってみたい。

○花を通して人と人とのふれあいを復活させたい。

「100年100万本」が合言葉。

○駅～万代シテイ～古町。(点から線へ、そして面へ)

#### ・戸田さん

外から見て花場だとわかる所を作りたい。

花のある環境の中で子どもたちを育てたい。

花に関わりいろんな人との出会いがあった。これからもこの出会いを大切にしていきたい。

#### ・倉重さん

[食]は衣食住で欠かせないもの。

[花]はゆとりがあってはじめて観賞できるもの。

山の桜は人のために咲いているわけではないが人を引き付けるなにかがある。

《花を通じて交流がはじまり～豊かな生活につながっていくものではないか…》

### 閉会の挨拶

### 第5分科会アンケート集計

☆第5分科会参加人数(スタッフ含)24名

アンケート提出数21 当日のアンケートより抜粋

### Q チューリップ球根植えの体験はいかがでしたか?

#### ①想像していたよりも面白かった

- ・市民活動が作るという原点にまで行き着いた(飾る→摘む→球根栽培)ことが横浜から見ずばらしい一言です。大いに見習わなければと感じました。
- ・子供に体験させてあげたいと思った。
- ・あまりの無造作な植え方で、これでいいのかなー! と思いました。肥料その他の準備が大変だったことと感謝しています。
- ・一生懸命植えたつもりだがあれでよかったのか…。来春花が咲いてくれるといいのだが。
- ・自宅のチューリップを植える参考になった。
- ・土作りやうね造りできていたので、ほんとに美味しいとこどりの楽しい作業でした。やっといううちにコツも覚え、手も早くなっていきました。

#### ②まあまあ楽しかった

- ・来春チューリップが咲いたところをぜひ見たい。もっと広い畑だと良かったか?
- ・毎年庭にチューリップを植えているのでお土産に球根をもらえてうれしかった。生産から活用まで市民が関わっているのはすばらしい。
- ・植えるのは簡単でしたが多分畑を作られるのが大変と思いました。

#### ③大変だった

- ・天候が雨で、5都市の人達には雨具・長靴が貸し出されましたが、一般参加者の人は何もなし。準備の物を教えて欲しい(傘・軍手は持参しました)ちいさなスコップと軍手はありました。





**Q ミニシンポジウムについて**

**①お話は興味深かった**

- ・新潟を含め各都市に熱い人達がいることがわかった。戸田氏のような仕事をしている人もいることがわかった。
- ・一般参加です。ミニシンポのテーマ等もう少し内容を詳しく報せてもらえたら良いと思いました。
- ・花を通して5都市の交流を図ることをもっと話し合えると良かった。
- ・チューリップを見直す思いです。石油と共に、新潟の違う顔を見せてもらいました。
- ・花の話聞いてやさしい気持ちになりました。
- ・「花」をテーマとしたまちづくりという視点に興味をもちました。
- ・大変面白かった。とりわけ歴史に深く触れられたことは勉強になった。
- ・中矢さんの話が印象的。(すごい情熱で花絵実現に漕ぎつけた)

**②時間が長すぎた**

- ・話が色々なことは良いが、その都度テーマを明確にして話した方が良いと思う。
- ・一日のスケジュールを知らなかった。(シンポジウムのある事を知らなかった)

**③時間が短すぎた**

- ・チューリップの栽培方法(冬の水やりetc)。知らないことが沢山聞いて感謝です。新潟のチューリップの花絵がいつまでも続けていけるような知恵を頂きました。
- ・花絵(利用者)と生産者との関係づけを意識した進行をしたほうがよかったです。

**④その他**

- ・時間配分もよかった。色々なところの取り組みも聞いてよかった。
- ・花絵プロジェクトの初代会長の発足時からのコンセプトをしっかり持って始めたとの話は興味深し。各都市の反応も大きかったのでは。

**Q 今日一日の流れについて**

**①大変楽しかった**

- ・新津地区が新潟市に入って自然が楽しめて本当に良かった。又自然を楽しむ計画をお願いいたします。
- ・倉重先生のお話がよかったです。実行委員の皆様お疲れ様でした。楽しい時間がすごせありがとうございました。
- ・至れり尽くせりの大変行き届いた会でした。スタッフの方々に感謝です。
- ・正直言って、あまり期待していなかったのですがすごく良かった。飽きさせないプログラムで一日楽しめました。新潟のスタッフの皆様ありがとうございました。
- ・大変充実した企画でした。石油との深いかかわりのあることに感動です。
- ・準備が大変だったと思います。感謝しています。
- ・(1)進行がしっかりしていた。(2)体験ができたこと。(3)ミニシンポの内容メンバー討議全体的に充実していて参加して良かった。

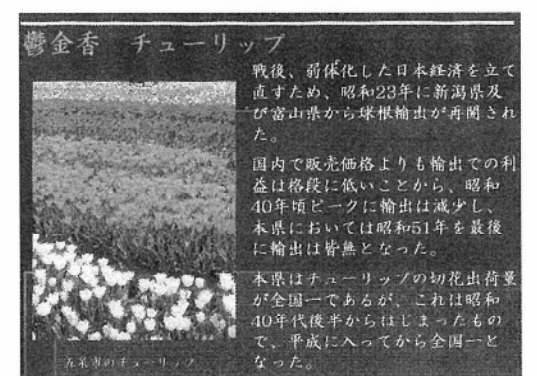
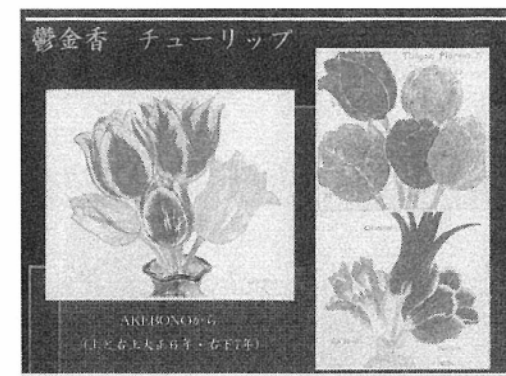
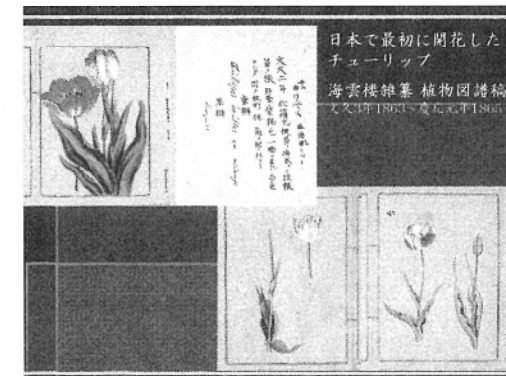
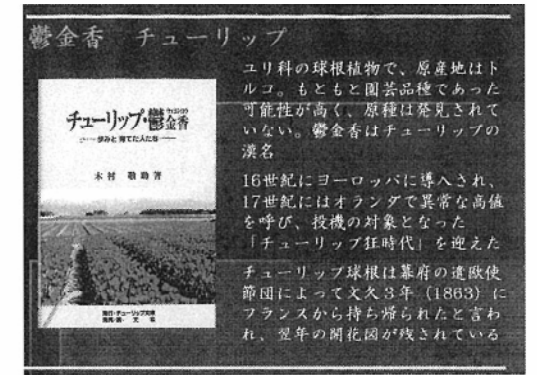
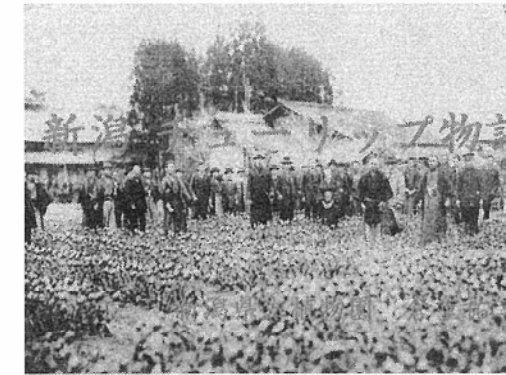
**②時間が長すぎた**

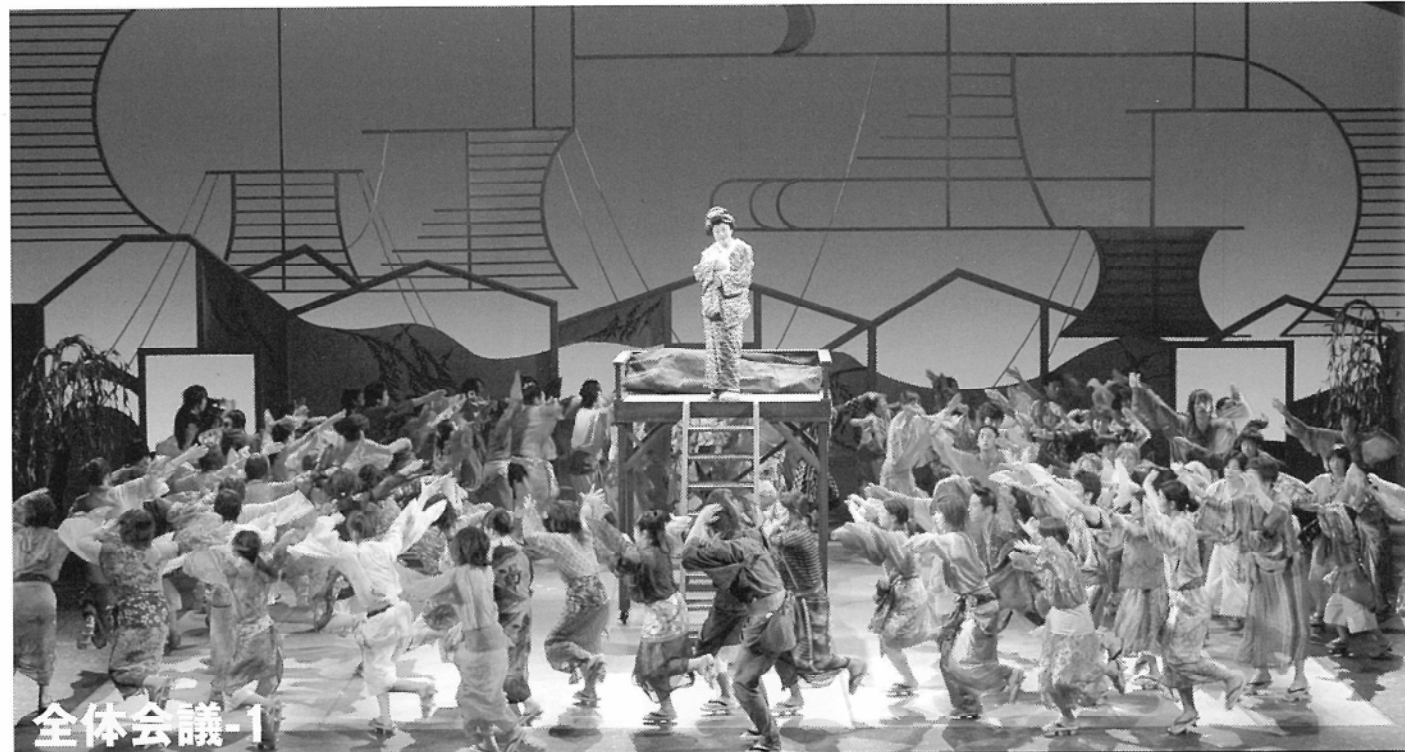
- ・皆様のおかげで楽しく過ごせました。ご苦労様です。いろいろ新しい発見がありました。ありがとうございました。

**③もう少し内容に変化がほしい**

- ・一般参加者8名、5都市関係者8名、スタッフ8名。5都市の人のための分科会ですか? 非常に差別を感じた。もう二度と参加しません。

**基調講演「新潟 チューリップ物語」資料スライドから**





全体会議-1

# 基調講演

## 新潟湊と明和義人

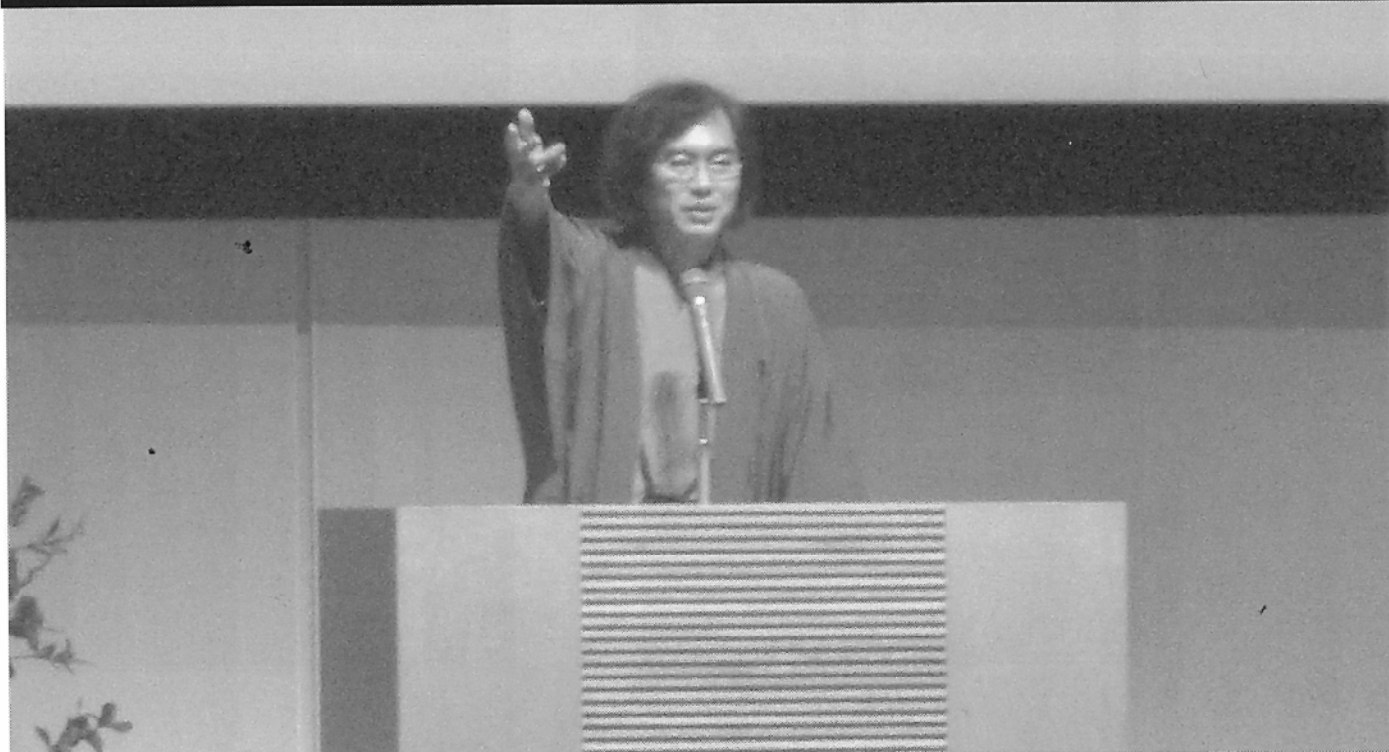
日時／2007年11月9日(金) 15:10～  
会場／朱鷺メッセ マリンホール

小説家 火坂雅志氏

### <プロフィール>

小説家。1956年、新潟市生まれ。早稲田大学商学部卒業。「別冊歴史読本」副編集長をつとめたのち、「花月秘拳行」で作家デビュー。

「新潟日報」朝刊ほか全国13紙に、上杉謙信の義の心を受け継いだ直江兼統の生涯を描く「天地人」を連載。このたび、同作品が2009年度NHK大河ドラマの原作に決定、歴史小説界の旗手として注目されている。著書は、「天地人」上・下(NHK出版)「黒衣の宰相」(文藝春秋)「黄金の華」(文藝春秋)「沢彦(たくげん)」(小学館)「全宗」(小学館)「家康と権之丞」(朝日新聞社)「虎の城」上・下(祥伝社)「覇商の門」(祥伝社)「社心の夢」(徳間書店)「骨董屋征次郎手控」(実業之日本社)など多数。



私は新潟市の出身で、20年近く歴史をコツコツと書いてまいりました。歴史小説は若いときにはなかなか評価されないんですね。20年、30年書いてようやく少しずつ皆さんの目に触れるようになる。プロとしてやってきて、今50冊を超えておりますが、なかなか名前が出ないという状態が続いて、大変苦しい経験をしました。

今年は私にとって非常にいい年になりまして、先ほど紹介に預かりました新潟県出身の直江兼統という武将、天下人である豊臣秀吉から天下執政の器量人、天下の政治ができるほどの大変な器量を持った男であるといわれた非常に優れた男なのですが、この人を主人公に書きましたところ、2009年度、再来年ですね。今のNHK大河ドラマは風林火山、これ井上靖さんの原作です。来年は宮尾登美子さんの天璋院篤姫、これは鹿児島出身の女性で將軍家へお嫁に行ったこの篤姫ですが、その次のNHK大河ドラマが私の直江兼統を主人公にした「天地人」に決まりました。4月に記者発表がありまして正式にそれが発表されたんですが、20年歴史小説をやっているよかったですと本当に思っております。

それから急に忙しくなりました、ずっと今月も十数回講演会があるのですが、あちこちで上杉謙信とその義を受け継いだ直江兼統の話をしております。ですから頭が上杉謙信、直江兼統の方に90%ぐらいいってしまっています。今日は新潟市の生んだ義人である涌井藤四郎、そして明和の騒動に立ち上がった人々の話をとるので、実は今日、あまりできない話をできるので私はうれしいですね。それで、ちょっとニコニコしているんですが、私の本当の地元である新潟市の明和義人・涌井藤四郎の話は4時半までしようと思っております。

この安政5年の、今日は5都市の集まりだということで、日本が幕末、国を開いていく開国という段階で5つの港を開放しよう。外国勢力から日本は鎖国をやめてくれということで、国を開くという条約を結びますね。

新潟はちょっと遅く開港されたいのですが、5つの都市、横浜、私は今神奈川県に住んでいますので横浜はすぐ近くでよく遊びに行きます。それから長崎ですね。長崎も歴史が大変古い町なので、私もよく足を運びます。坂本竜馬がいました。坂をずっと上っていくと竜馬のつくった日本最初の会社組織の海援隊の発祥の地なのですが、訪ねたことがありますし、神戸ですね。兵庫県の県庁所在地として栄えている町で、あと函館ですね。函館もいろいろ行きました。港町にはよく行きます。

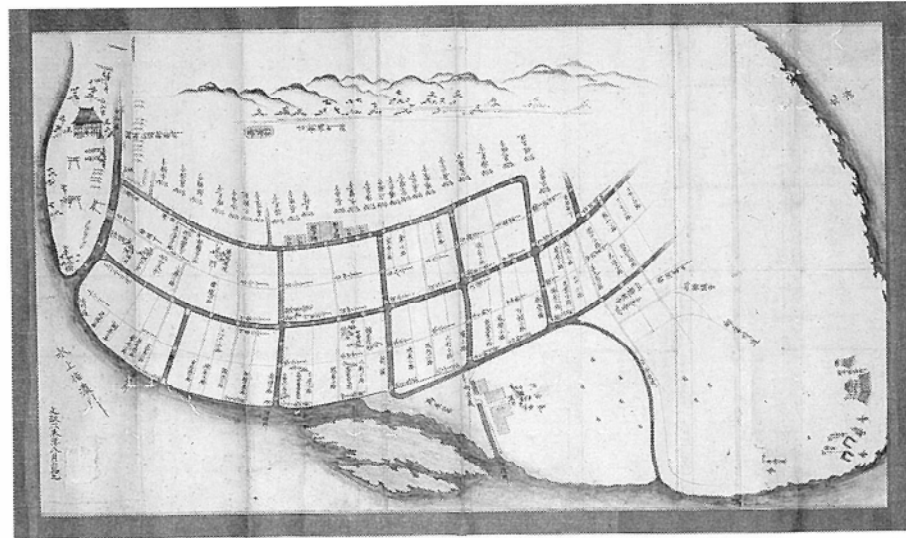
港町へ行くと非常に楽しいですね。私は歴史小説を書いている関係で城下町へ足を運ぶことが多いのですが、特に徳川譜代の城下町は非常にかたいです。遊ぶところが少ないですね。

例えば山形県で典型的な例が、鶴岡という町があります。これ藤沢周平さんの出身地ですが、行ってみますと非常にかたいというか遊び場がほとんどないですね。あそこは庄内藩で、徳川譜代の酒井家が入っていて、遊び場がないというのが城下町なんです。遊び場はたまに城下の隅のあたりにこそそこそと遊郭があったりしますが、あとはほとんど遊び場がない。

ですからいまだに伝統がありまして、徳川譜代の城下町というのは全く遊び場がないです。それに代わってすぐ近くに酒田という港町があります。これは日本海の北前船で大変栄えた町です。そこには今は資料館になったりしていますが、料亭が多くあって、そして、最近は芸妓さんたちがどんどんお年を召して世代間の伝承ができなくなってきているので、若い女の子が安心して働けるような会社組織にしていますが、新潟と同じように振袖さんのような方達もいます。酒田は今も港町ですが、城下町と港町はそれくらい違うんですね。

私は歴史小説を書いていますので図書館によく行きます。そうしたら徳川譜代の城下町、図書館に行きますと怖い人がいるんですね。郷土資料室とかに行きますと、この本を貸してやるんだぞと。何かお上みたいな人がいて、お前何者なんだと。この難しそうな本を借りて本を傷めないのかみたいな顔をする訳ですよ。恐ろしい女性の人が座っていて、お前、こんな本借りてどうするんだみたいな、非常に失礼な扱いを受けることがあるんですね。私は鶴岡へ行った時もそうだったんですね。





「新潟町絵図」文政6(1823)年

図書館というのは皆さんに読んでもらうためにあるんじゃないか。皆さんに貸し出して、みんなのためにあるのが、公のためにあるのが図書館です。そうじゃないんですね。譜代の城下町では下々の者に読ませてやっているんだみたいな、いまだにお上意識が非常に強い。

ところが酒田のほうに行きましたら、いや、何をお調べになりますかと揉み手をしまして、商人の世界なんですね。揉み手をしてどうですか、何を借りたいんですか、本当に探してきますよ、みたいに非常に商人的に愛想がいい。これくらいいまだに城下町、特に徳川譜代と港町というのは全く町自体の性質が違うんですね。

私は歴史小説を書いています取材に行くと、いつもそういうことを感じております。ですから私は徳川譜代の城下町はあまり好きじゃありません。威張っていますね。お役人が威張っていて、特に図書館というところには権威をつけなければいけない世界なので、下々の者に貸してやっているのだというのがあります。私は港町の方が大好きです。私は港町・新潟の生まれなのでそんなことを感じています。

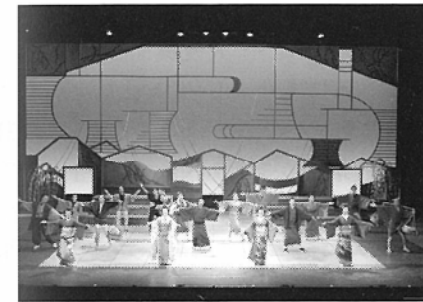
今日の話ですが、港町というのは大変開かれたところですね。日本が最初に開かれた場所がまさにこの開港5港だったんですね。これは明治になって開かれたということではありません。それ以前からの歴史がその港町にはそれぞれ眠っているわけですね。

例えば今日はせっかくだらんな町からいらっしゃっているんですが、新潟で開かれていますので、新潟の話をしていただきまして、港町とはどういうものなのかという原点を振り返りたいと思います。

この新潟湊というのは何時頃できたと思いますか。湊というのは古い時代から船が停泊したりしますが、実は新潟湊はそんなに古い時代からのものではありません。古い時代というのは古代とかですね。鎌倉時代とかそういう時代からではないです。戦国時代に初めてできた湊です。ですから新潟は名前にも新しい湊ってありますね。これは新しい湊が戦国時代にできたんですね。その時代に新しい湊として勃興したんですね。

この新潟の地はだからといって戦国時代から始まったわけじゃないんですね。古くは蒲原の津という、大体この辺は蒲原平野といっていますが、昔は平野ではありませんでした。要するに潟というんですか、海から入り込んだ湖といたらいいか、入り江といたらいいか、そんな広大な入り江が広がっていたんです。そして信濃川が流れ込んで網の目状になって、どこが平地でどこが川かわからない、湿地かわからないというのが新潟湊の古い状況ですね。

ですから新潟の郊外には、今は新潟市になりました亀田というところがありますが、亀の田んぼと書きます。ここでは昔は水田を耕すときに胸まで埋もれちゃうんですよ。苗を植えようとするたびに入っていく。それで胸まで埋まりながら植えたり、船に乗って植えたりしなければいけない。溺れそうになるくらい深い。その後土地改良をしまして、今は亀田のほうは良田が広がっていますが、それくらい深い田んぼの湿地帯がこの辺の



状況だったんです。

この川の入り江、日本海側では川の入り江が港になるんですね。そこが点々と湊になります。ですから日本海側の湊は潟があったり、川の入り江である例が多いです。新潟もそうだったんですね。古くは蒲原の津といまして、そういう湊は古代からありました。

もう1つ、沼垂という湊がありまして、信濃川の左岸と右岸で2つありました。要するに教科書にも出てきますが、沼垂の津、沼垂の木という欄がありまして、古代の兵衛舎の1つが置かれていたんですね。この沼垂、蒲原の津がずっと古代から栄えてきたんですが、戦国時代になり、新たな津である新潟というのが生まれたんです。

戦国時代に急に勃興しまして、この辺の入り江は沼垂・蒲原の津、そして新たに生まれた新潟の津ですね。この3つ、3か津といいますが、栄えました。

そして殊に新潟を保護した武将がおられます。これが上杉謙信、越後の美将といわれていますが、上杉謙信がこの新潟の湊を大変保護しました。上杉謙信というのは戦国の義将、名将として有名なんです、日本海の交通、流通、当時太平洋側は船便があまり盛んではなかったですね。それに対して日本海側が戦国時代には大変栄えておりました。ですから大回りをする北国船という船が蝦夷地の松前、それから土佐湊、津軽ですね、秋田の土崎湊、そして新潟、そして直江津、そして富山のほうの湊から能登半島を越えまして越前、敦賀、そして若狭の小浜、そして出雲のほうの湊をつなぎまして、大変栄えていた訳ですね。冬の日本海側は荒れますので船は出せません。ところが春から夏、秋は大回りの船、そして小回りの船、盛んに栄えた。戦国時代には北国船、そして江戸時代になると北前船というのが栄えました。そして新潟はまさに北国第一の湊として賑わったんですね。

上杉謙信は自分の直轄領にしました。そのくらいそこからの上がりがよくったんですね。上杉謙信が保護しまして、その後、戦国時代でそこを巡る有名な争いがありますね。上杉家の2代目を継いだのは上杉景勝、そしてその執政を整えた直江兼統なんです、なかなか国内を掌握できなかった。その時に織田信長、安土に安土城という凄い城を興す織田信長と結んで越後を乗っ取ろうと考えた武将がいました。これが新発田、新潟県新発田市の新発田重家という武将だったんですね。この武将も大変武力に優れた猛将で、よし、上杉家に対し織田と結んで越後を乗っ取ってやろうと考えたんですね。まず、最初に彼が目をつけたのは新潟湊です。新潟湊に兵を送り込みまして、新しく勃興してきた上杉謙信が直轄領としている新潟湊を乗っ取ってしまうんです。沖の口運上といういろんな船から取引によって上がる上りを全部没収するようになります。新発田重家が一時この新潟を支配するんです。

これに対しまして、上杉景勝、直江兼統主従、今の上越市、春日山城から何度も仕掛けるんですが、新発田重家は猛将なのでなかなか倒せない。ということで4年くらいかけて攻めまして、ようやく豊臣秀吉が当時勃興していましたので、それと手を結んで新潟湊を落とせよという秀吉の命もありまして、新潟湊にやってきました、木崎城を前線としまして新潟の山の手のほうに寄居を造りまして、新潟湊を攻める訳ですね。

その時に商人達はもうもたないと。新発田重家と手を結んだ織田信長も本能寺の変で倒れてしまう。もうこれは新発田の殿様はもたないぞと。上杉についた方がいいだろうと新潟の商人達も考えまして、玉木屋、そして若狭屋という商人達が城の番であった新発田刑部の首を取りまして、上杉景勝主従に差し出します。そして新潟湊は上杉が再び治め、そして対岸の沼垂湊もまた上杉景勝が支配し治める。

なかなか明和義人の話にいかないんですが、この新潟湊は商人の、商業の町なんですね。これを何とか上杉家は直轄領にしたいということで、そのための見張り役というんでしょうか、ある人物を送り込むんです。それが最近はっきりしてきたんですが、新潟に古町神明宮というところがあります。池田弘さんというアルビレックス新潟を立ち上げた方が神主をやっているらしいんですが、その神明宮に直江兼統が自分の腹心を送り込みます。腹心とは誰かという神社の神主さんなんです。

実は上杉家は経済的なことを、三重県の伊勢神宮があります。その伊勢神宮に、紙札を配って歩いたり、諸国をめぐり歩いて伊勢神宮の旦那場を作っていた御師、これがたまたま経済通だったんですね。経済のスペシャリスト。それで上杉謙信は非常に経済政策重視の武将ですので、任せたのが伊勢の御師だった訳です。蔵田五郎左衛門というのが直江津にしまして、全部上杉家の経済的なことをやっておりました。これはもともと伊勢の御師です。

上杉景勝、直江兼統、第2代目ですね。2代目の世代が継いだときも、上杉家の経済面を全部牛耳ったのは伊勢の御師達です。

新潟も直轄領になりました。そのときに神明宮に伊勢の御師を送ります。これが次太夫という御師ですね。次太夫というのは神明宮の神主になって、行田家というのが継いでいるんですが、それがその後池田弘さんの家がやるようになりました。

ですから新潟に直江兼統の腹心が来て、上杉の直轄領としていつも目を光らせていた。商人達の発展をいろいろ管理したりしたのは実は神明宮の神主さんなんです。ということが最近研究によって明らかになって、そんなことで上杉家が越後を去ります。会津若松に転封になります。豊臣秀吉の時代ですね。そうしたら堀家が入ってきます。

堀という殿様は大変一生懸命に新潟のために尽くしたんですね。税金を大変安くして、自由な活動をなさい。新潟はどんどん栄えてきますね。その後、堀家も去ります。そして入ってきたのが長岡藩ですね。これがまさに明和騒動、新潟と明和騒動の藩。

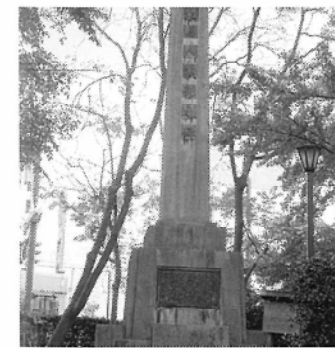
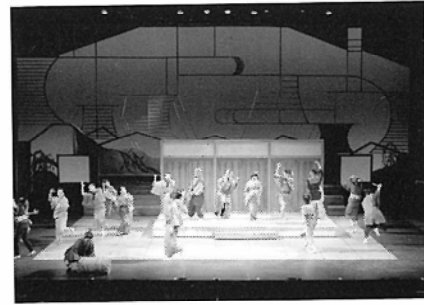
長岡藩は新潟と違います。長岡市は新潟県第二の都市です。大変真面目な藩です。長岡藩が新潟を支配しておりました。ただし、全部何でもかんでも口を出した訳ではありません。というのは先ほど申しましたが、湊町には自由の気風があるんですね。自由の気風があり商人達は経済力がありますので、命令系統があまりよくきかない。それで奉行を派遣しまして町会所というものを置きました。検断を任命しまして、そして検断、町代、町人という組織を作りまして、その組織のトップを任命することによって遠隔操作をしていました。

ですから町奉行はやってくるんですけど、あまりうるさいことは言わないというのが湊町というところの本質的な特質ですね。新潟もやっぱりそうなんです。ですから自由の気風というの、それが湊町の気質なんですね。だから飲み屋も多いわけですね。うるさいことを言う人もあまりいない。お上がいない。これが湊町の特質ですね。

この新潟である事件が起きます。これを明和騒動、新潟騒動といいます。この騒動が大変変わっているのです。普通は江戸時代一揆というのが起きます。つまりお上の政治がちよっと間違っている。年貢が高すぎるんじゃないかということに訴える時には、今であれば選挙で投票すれば政権は覆りますよね。ところが当時は選挙という手段はない訳です。庶民はトップを選べない訳ですね。もうずっと続いている、何代も何代も続いた殿様がそこにいる。その殿様がいかに悪政、ひどい政治をしてもそれを替えることは庶民にはできないんです。そのときに庶民に残された唯一の手段、意見を訴える手段が一揆というものです。

一揆を起こすことによってこの政治はおかしいと。年貢が高すぎる、殿様が全然みんなのことを思っていないことをやる、あきれたようなことをやる時には一揆を起こして自己表現をする。デモのようなものですね。自己表現することによってやはりプレッシャーになる訳ですね。中には訴えを聞いてみたらひどすぎるとして、殿様が改易になったりします。そういうことを訴えて、認めさせるのが一揆。ただし首謀者はみんな処刑されます。つまり、その訴えを認めてある程度受け入れる代わりに、リーダーは必ず処刑されるのが一揆の手続きなんですね。

江戸時代はたくさんの一揆が起きています。ところがこの新潟で起きた一揆、都市型の一揆である明和騒動というのは、ただの一揆ではなかったんです。つまり一揆というのは大体打ち壊しというんです。米を買い占めていたり、豪商だったり、藩と結託した者を打ち壊すんですね。打ち壊して米をばっつと出して、米騒動ですが、自己表現をした後はしゅんとする訳ですね。2、3日暴れまわったあとは何もしないと。暴れまわっ



明和義人顕彰之碑(白山公園)

たんだから何とかしなければいけないということで、ある意味暴動で終わってしまう。

ところがこの新潟で起きた明和騒動、新潟騒動では2ヶ月間にわたって自治政府が誕生したんです。これは日本で唯一の例なんです。市民達が立ち上がって王政を倒したバリコムーブメントがありますね。そのなんと100年も前にこの新潟でまさに都市型のムーブメントが成立しまして、市民が、当時は町民ですが今は市民といいますね。町民が立ち上がりまして自分達のための政治というものを2ヶ月にわたって繰り広げるとい、日本史上奇跡のようなことがまさにこの新潟で起きたんですね。

それは湊町の自治の気風、自由の気風というものを抜きにしては全く考えられない出来事だったんです。海外でベネチアという町が栄えました。商人たちが会議を開きましてそして自分達のことは自分達で決めるんだ。そして日本の戦国史では日本のベネチアと呼ばれた都市もあります。泉州堺、堺湊です。お茶を広めた千利休などは堺の商人ですが、戦国時代でも堺湊というのは三十六人會合衆というものがありまして、月に3人、いろんな商人たちの代表が3人いまして、それが月番で交代していますので、3人が12ヶ月で三十六人會合衆というんですね。どうもこれはヨーロッパのベネチアの制度を真似たようだけれども。

堺ではそうでしたし、先ほど申しました山形県の酒田湊でもやはり三十六人會合衆、そして三重県の桑名湊でも三十六人會合衆と成立しまして、町人達が自ら会議を開いて、寄り合いを開いてすべてを決めていくという制度が江戸時代にあったんですね。それがどんどん潰されていきました。

織田信長が登場し、堺にお前達金を出せと、野戦軍資金2万貫を掛けます。堺湊は金持ちなので2万貫出せないことはなかった。でも自分達の自治が破滅させられるということで抵抗します。堺では商人達は軍事力を持ったんです。つまり傭兵という臨時雇いの兵力ですね。お金がありますので兵力を雇えるわけです。ですから何人も何人も侍を雇っている訳です。織田信長に対して最初は抵抗しようと思いますが、信長の兵力は強大なので潰されてしまいます。

ですから、ある意味で戦国時代というのは、湊町で行われていた自分達の自治が、天下統一の段階で天下人になる人間によって潰されていく政治でもあった訳です。ですから泉州堺は織田信長らによって代官を送り込まれ、ある程度の自治は認めつつも、それぞれ権力の下につきなさいということで、天下統一とともに織田信長、豊臣秀吉、そして徳川家康と権力者となった人間は湊町を自分の統轄下に置きました。

しかし湊町というのは地下水脈のようにずっとそういう気風が残っていたのですね。まさにそれが吹き出たのが新潟騒動であった訳です。ですから世界的に見ても不思議なくらい進んだことが行われてしまったんですね。

この新潟騒動なんですが、首謀者、リーダーは涌井藤四郎という男です。この人間は新潟の東堀5番町というところに家がありました。どういう商売をしていたかという呉服屋です。ただし、涌井藤四郎はそんな大きな商人ではありません。呉服問屋というような大店ではなく新興商人です。

おそらく私が考えるに、古町、あの辺は今でも鍋茶屋とかありまして花町です。涌井藤四郎の家は今の小川屋仏壇店の場所でした。昔はあそこに小さな呉服屋さんがあったんですね。

涌井藤四郎はおそらく呉服問屋ではなくて在方を回って商売していたのだと思います。というのは、私は新潟でも田舎の方の出身で、阿賀野川のほとりの本所というところで生まれました。そこに沼垂の呉服屋さんがいつもバイクで呉服を持ってきて、おばあちゃん、今いい呉服が入ったからまた作ってくださいみたいなことですね、いつも呉服をバイクに乗せ担いで商売していました。おそらく涌井藤四郎も、本店は新潟にありながらも在方を巡って商売をしていた人間なんじゃないかなと自分の経験から思っております。

もともとは涌井藤四郎の先祖は福井県越前の出身なんです。それから佐渡島。要するに船の交通が盛んだったので、佐渡島へ渡り、そして新潟へ先祖が来たんだと言われてます。そして呉服屋をやっておりました。



なぜこの涌井藤四郎という男が立ち上がったか。この理由ははっきりしております。この新潟湊は北前船で北国第一の湊として大変栄えていたんですね。ところが新潟湊に不況が訪れます。というのは新潟湊のすぐ横を信濃川という大河が流れています。この建物からも見えますが信濃川が滔々と流れています。これは日本一の大河です。信濃では千曲川といわれまして、新潟に入りますと信濃川。ゆったりとした川で平野を流れています。

もう1つ、新潟湊に注ぎ込んだ川がありまして、阿賀野川は松ヶ崎に注いでいますが、実は当時ぐるっと回りまして新潟湊に注いでいたんですね。2つの大河が合わさってどっと土砂を運んで流れていました。この阿賀野川は会津のほうから流れています。会津では阿賀川といいますが、これが流れてきてここにどっと信濃川と合わさります。信濃川は土砂をゆっくりと運んできます。阿賀野川の急流がどっと流れてきますが、一緒に合わさっていますので土砂を海へどんどん運んでいるので湊が深くて非常に船をつけやすかったんですね。

ところが新発田藩が阿賀野川の流れを変えようと考えました。私も阿賀野川のほとりなので、川の流れが速くて子どものころ川で泳いでいると溺れそうになりました。本当に川に流されちゃったんです。あっぷあっぷしておそらく死ぬ間際だったんですね。それを上級生が助けてくれています。水を吐いて何とか助かりましたが、生きていなかったかも知れないですから、それくらい川の流れが速いというのは、身をもって知っているんですね。

その川を新潟湊を通さずにまっすぐ海へどんと流しちゃうという工事が始まります。新発田藩がやったんですね。工事をしていると新潟商人達は怒るんですね。そんなことされたら阿賀野川の水が流れてこなくなって、信濃川だけじゃ川底がどんどん土が堆積するので湊が浅くなってしまふといったところ、騒動になるわけです。

ところが新発田藩は何とかしたい。というのは、あのあたりは広大な蒲原平野という土地がありますが、排水が悪くてなかなか田んぼにできなかった。汚水が溜まってしまうんですね。田んぼにできない。それを阿賀野川で一気に汚水を抜くことによって広大な新田開発をしようと新発田藩は考えたんですね。新発田藩はそのために阿賀野川を直接川へ流そうとします。流そうとする時に、実際流したんですが、その一部分だけを用水で小さな堀を作って流す。新潟湊の方へは水が流れないようにするといった工事をしたんですね。

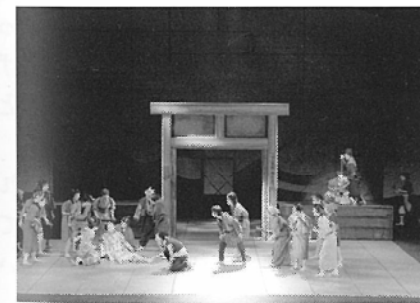
ところが雪解け水がその用水を突き破ってしまいまして、今のようにまっすぐ津川から海へどんと流れるような川になっちゃったんです。新潟湊の方へは水が何もなくなったんです。このために信濃川の土砂が堆積しまして、湊が使い物にならない。水深が浅くなって大きな船が、千石船、五百石船が入らなくなったんですね。

湊としては大変困ります。船が着かなくなって沖から解で運ぶぐらいになってしまった。大変新潟湊は不況に陥りました。この時にどんどん新潟湊は船が来なくなって不況状態になりました。

こうした状況の中、新潟を支配する長岡藩が1,500両という御用金を課してきたんですね。この1,500両の御用金というのは何かといいますと、大変な金額なんです。取り立てをする。それぞれの所得に応じてそれを新潟町民に割り当てる。そのために借金を抱えた人もいます。貧しい人もいます。払えなければ家屋敷を売らなさい。家屋敷を手放しなさい。それで払えという強硬的な御用金。

新潟湊で御用金というのは臨時税なんです。藩の人達が臨時に掛ける税なんです。ところが普段から税金は取っている訳です。すあい金といまして、今の消費税ですね。新潟湊で売買がされるとその消費に対して掛けていくという消費税を掛けるわけです。それが長岡藩の財政の5分の1くらいを占めている訳です。巨大な財政。ところがそれでも江戸時代半ばになりますと金が足りなくなる。藩が財政赤字になる。それで新潟湊に御用金1,500両払えるだろう。払えなかったら家屋敷を売払ってでも払いなさいと長岡藩が命じてきたんです。

これに対して新潟湊は不況に陥っているので払い難いんですね。でも、領主様の言



うことには敵いませんということで、半分の750両を払います。そしてあとの750両は1年後まで待ってください。その代わりその間は月二分の利子を払いますので、許してください。何で御用金に対して利子を払わなければいけないのかわからないんですけど、利子を払うから許してくださいと新潟の町民たちは言ったんです。明和4年のことなんです。半金750両を次の年の夏まで猶予してください。

ところが一向に経済が回復しないんですね。新潟湊は先ほど申しましたように領主は長岡藩です。侍が領主で、今の大体三越あたりに新潟奉行所があったんですが、一方で新潟の実際の町政をしていたのは町会所というところで、これは今の第四銀行本店のところにありました。明治時代になって町会所の建物があるということで使われまして、第四銀行になり、それがいまだに第四銀行本店です。かつて町会所があった場所なんです。

この町会所にいたトップ、検断という人間です。検断が3人、当時は1人いなくなって2人になっていました。加賀屋と室屋の2人でした。つまり長岡藩に命じられた訳ですから長岡藩とのつながりが非常に強い豪商だったんですね。どちらも回船問屋でした。回船問屋は船を持っていて、千石船、全国、日本海を駆け巡らして巨大な利益を得ていたんですね。

この町会所の役人達、検断3人、1人は検断代が務めていた。それから町老ですね。それらトップは特権があったんです。特権は何かというと、税金を払わなくていいということです。つまり一番儲けている人達が藩で全部選ばれて、そういう人達が税金を全く払わなくていい。一番儲けている企業が税金を払わない訳です。普段の税金、固定資産税も払わなくていい。すわい金、つまり消費税も払わなくていい。そして臨時税である御用金1,500両、この町会所の検断、トップ達はそれも免除。それなのに、中流以下の商人や、貧困家庭まで税金を取られる。貧困家庭は家を売れと。家を売って払いなさいと言われて家を手放す。そのために自殺者が出る、そういう状況になったんですね。

これに対してやはり新潟町民はおかしいだろう。何でそこまでして、死人、首吊り、自殺者を出し、何で払わなければいけないんだという素朴な疑問が彼らの間に湧き起ったんですね。利子をつけて750両払う翌年の夏になりました。全く景気が好転しない。しかも好転しないどころか長岡藩と結んだ検断、町老という人間達、回船問屋、そして米問屋、これらが米の買占め、つまり投機をする訳ですね。米を一気に買占めをしておいて自分が値段を操作するんです。操作してどんどん値段を吊り上げて売るという商社みたいなことをする訳ですね。アメリカの石油資本みたいなものですね。

米問屋や回船問屋達はどんどんそういうものを買って、値段を自分たちで操作して、米の値段もどんどん上がる訳です。これで一般の人達はどんどん苦しんでいくという究極の格差社会ができた訳です。ですからみんなが怒るのも無理はないんです。

一般の町の人達はこれは我慢できないということで、長岡藩に対して嘆願書を書こうと。つまり、この窮状では750両出せない。これを猶予、延期してくださいという嘆願書を出そうじゃないということを当時51歳くらいの涌井藤四郎と、70歳くらいのご意見番の岩船屋佐次兵衛、この2人が中心になりまして、町中に書状を巡らしてみんなが連判します。はんこを押して、よしわかった、俺達も文句を言おうじゃないかということで連判状を書きます。連判状を町に回覧板で回しまして集める訳です。集めました。集まりました。そして長岡藩に2人が嘆願書を持って行こう。今の三越のところに奉行所ですが、行こうという時に告げ口をする人がいたんですね。恐くなった。お上が恐くなりました。長岡藩はそんな不屈な動きがあるのかと知って怒る訳ですね。

それに対して事前に嘆願書を出そうと思ったのに洩れてしまった。そこでどうしようか。みんなも熱くなってきた。長岡藩はそんなのは許せん、御用金が消えるかという態度です。所以对立関係ができた。

西祐寺というところに集まりまして、長岡藩に嘆願書を作ろうじゃないかとなった時に、寄り合いから今までののは許せん、まず御用金の半額の免除を願い出よう。そして毎年納めているすあい金は隔年で納めるよう長岡に嘆願書を出して、すあい金の浮いた

年はそれを困窮者へ貸し付けに充てようという意見がどんどん出まして、そういう嘆願書を提出しようという話が出たんです。それをまた密告する人間があるんです。

それで涌井藤四郎は首謀者として長岡藩、町奉行に捕まりまして牢屋に入れられるんですね。こういう事態に至り、これは涌井藤四郎を助けなければいかん、涌井藤四郎を獄死させるようなことはいかんということで、新潟の町民たちが蜂起します。新潟では下と上、海のほうが下といまして、白山神社のほうは上というんですね。まず下のほうが立ち上がるんですね。

日和山という山、どこでもありますね日和山。北前船の寄る湊なら、そこから眺めて海の天候を見て、そして出航できるかどうか確認する象徴的な湊町の丘ですね。そこに結集しまして、みんなが驚口とかいろんなその辺にあるものを持って立ち上がる訳です。夜本明寺という一番下のほうのお寺で鐘がカンカンと鳴らされました。次々と鐘が鳴らされる。新潟は寺町がずっと下から上まで一直線に並んでいます。その寺の鐘が鳴らされて、千人の民衆が蜂起します。そして町会所を目指すんですね。奉行所ではないんです。町会所を目指すんですね。町会所というのは新潟の政治を実際やるところで、両検断なんですね。そこを目指して行く訳です。

そして途中、買占めをしている米問屋、そして町の手先になって十手を握っている中使という町回りの家を打ち壊しながら町会所に向かって進んでいきます。これは長岡藩としては町会所を潰されたら藩は面目丸潰れですね。何とかこれを防がなければいけないということで、長岡藩は奉行所の同心を率いて出動するんですね。長岡藩自体の侍が出て来るんです。

そして町衆が町会所に向かって堀を幾つも渡りながら行く。その途中待ち構えていましてぶつかる訳ですね。鉄砲を長岡藩は持っていますのでバンバンと最初は威嚇射撃をした。石垣忠兵衛が威嚇射撃をします。そしてあとから佐野とかが、お前そんな甘っちょろいことじゃだめだ。みんなに向かって撃つというのでバンバンと撃つんですね。そうしたら先頭にいた人間達、体力のありそうな相撲の東関なんていう相撲取りが最初にいてどんどん進んでいたんです。東関が撃たれて倒れました。次々に倒れます。みんなびっくりしまして、本当に長岡藩が撃ってきたぞというので一旦逃げ出します。

ところがそこにいた黒覆面の装束を着た五賀野右衛門という浪人が、怯むな、もっと行け、大丈夫だ、ここで戦わなければ何時戦うんだということで、屋根の上にみんなを登らせるんですね。新潟は湊町なので夜は風が吹いたりするので、石置き屋根といって屋根の上に石が積んであるんです。その石を屋根の上から奉行所の軍勢に投げつける。鉄砲を撃っている上から石が落ちてくるので、奉行所の連中もこれはだめだということで逃げ出します。

民衆の方が勝ちまして、奉行は2人いたんですが、佐野奉行というのは鬘を切られて動けなくなった。もう1人の石垣忠兵衛の方はやられそうになるんですが生き残っていた。それが2晩続きました。奉行所側も涌井藤四郎を出さないとうとうしようもないということで解放します。牢屋から出します。

ところが2晩目もまだ騒動が起きて、石垣忠兵衛が出動するんですが、みんなにとっ捕まって殴り殺しになるところを、止めろ、これ以上やったらいけない、藩への敵対行為になる。町会所をやっているうちは主張になるけれども、奉行所までもし襲ったり、奉行を殺したりしたら後戻りができなくなるということで、涌井藤四郎は五賀野右衛門と決めまして、石垣忠兵衛を帰します。

奉行2人は奉行所に閉じ籠もります。どうしようもない。市政が掌握できないので閉じ籠もります。代わって市政を行ったのが涌井藤四郎ら一般市民です。この新潟、湊町はもともと自治の思想がありまして、商人はそれぞれ文化的な資質を持っているんです。ですから彼らには新しい市政、いろんなものを吸収したり、いろんな勉強をしたりした文化人なんですね。商人はそれぞれ文化人、文化的資質を持っている訳です。

特に涌井藤四郎はある思想家の影響を受けたと私は思います。これは誰かと申しますと、教科書に出てくるんですが、幕末の勤皇の志士達が出てきます。長州の吉田

松陰は勤皇の志士です。その最初の先駆けというのは誰かと申しますと、竹内式部というんです。勤皇思想ですね。幕府政治はおかしいと。新しい政治体制を作らなければいけないのではないかと。これを最初に主張した人間が竹内式部という人間です。教科書に載っています。

これはその後宝暦事件、明和事件、幕府は当然こんな人がいたら問題なので、捕まえて処刑したり、島流しにします。その竹内式部の出身地が実は新潟湊です。竹内宗詮という医者の子息なんですね。医者の子息で若くして京都へ遊学しまして、公家の間で尊王思想を学んだ。竹内式部、同じ新潟湊なんですね。ですから涌井藤四郎が先輩としてその思想的影響を受けていたというのは、その可能性として非常に高いですね。

なぜかと申しますと、明和5年に新潟湊騒動が起きている訳ですが、前年の明和4年に竹内式部は幕府に捕まります。八丈島に流されます。流される途中どういうことがあったかわかりませんが、途中の島で、三宅島だったか、病死をします。病死というのは何なんだろうかね。もしかしたら毒を盛られて殺されたかもしれない。

要するに過激な尊王思想を説く男を生かしておいたら世のためにならない。幕府の崩壊につながるということで、幕府は抹殺した訳ですね。その翌年にこの竹内式部の出身地である新潟湊で明和騒動が起きていますので、これはむしろ思想的な影響を受けなかったと考えるのがおかしい。おそらく涌井藤四郎は竹内式部に若いとき影響を受けていたに違いないと私は思っているんです。

その男が50歳になってようやく自分の湊町でこれは許せないということが起きた。50歳の男が蜂起したわけです。心には熱いものがきつとあったんじゃないかと思えますね。この故郷のために自分は今立ち上がりずしていつ立ち上がると思ったんですね。

というのは竹内式部はこんなことを言っています。「今の世の中では志あるものはみな望みを失い、本当の道を知っているものは名を隠すように生きる。上に立つものはこの浅ましい世の中を知らずに、いたずらに時を貪っている。志あるものは嘆いてばかりおらず、そこから立ち上がりねばならない。」こういうことを江戸時代に彼が言っております。

まさにこの思想というものが幕末になり、長州、薩摩の志士達のエネルギーになった。つまりこの騒動はただの騒動ではなくて、明治維新の先駆けともいえる騒動なんですね。

そんなことで影響を受けたであろう涌井藤四郎は立ち上がった訳です。そしてこの新潟で町中総代、町人たちの総意によって選ばれたんです。総意によってトップが初めて新潟の土地で選ばれた。そして推され、町中総代に就任します。この町中総代は各町総代というのが下にあります。つまり涌井藤四郎が町中総代ですね。その下に各通りの総代というのがあるんですね。古町通りの総代、本町通りの総代がいて、その下に各町、5、60ありますが、町の代表というのが集まりまして、今までは寄り合いなんてなかった。寄り合いというのは議会ですね。議会なんてなかった。それがそれぞれの代表が結集してお寺で50数人、60人ぐらい、町の代表者達が集まりまして、お寺で議論しまして、みんなの意見を集約しまして涌井藤四郎が行うという民主的な政治が始まったんですね。

彼らはどういうことを行ったかという、まず1番目、問題になったのは米の暴騰ですね。つまり一部の商人達、長岡藩と結んだ税金も払わない特権商人達が米の買占めを行って、米を吊り上げ、さらなる利を生んでいた。これに対して米価の引き下げをします。庶民が普通に買える値段にまで米価を引き下げます。

中には引き下げても買えない人もいます。本当の零細の人ですよ。今でいえば国から保護を受けている人ですね。収入がない。そういう家庭もありますよね。そういう人達に対して、すぐに金はないだろうということで、米手形を発行しまして、後で払えば今すぐ米が買える。涌井藤四郎の判を押した米の手形を配りまして、金の無い人でもすぐ飢えを満たすことができる、そして後で米手形を払っていくということで、一応貧窮民の救済策というのが行われるんですね。

米だけではなく味噌とか酒とかどんどん上がってくるんです。新潟社会というのは

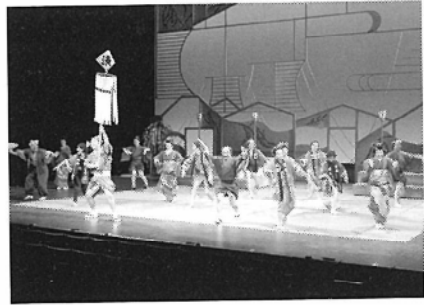


現在の日和山(住吉神社)



竹内式部像





酒がないとだめなんです。今でも普通、長崎でいえば何か贈り物はカステラとかありますね。どこでもお菓子とかが普通に渡されるんですが、新潟社会ではお菓子に代わりに、必ず人の行くところは酒を持っていくんですね。ですからお酒というのは新潟社会では非常に重要なんですね。人との付き合いの中で。そのお酒の値段まで引き下げた。味噌も当然、醤油も、生活必需品はみんな大体30%引き下げを行いました。

それから高利貸が蔓延するんですね。こういう貧窮した時は当然金が無いということでもみんな借りますね。サラ金のローンに代わり、中には闇の金融にまで手を出し、貧窮者はさらに貧窮する。

それに便乗しまして江戸時代、今の規制が無いんですからどんどん貸し出す。高い金利で貸し出す訳ですよ。なぜできるかというと、質屋が10軒しか許されていない。これ江戸時代というのは株仲間というのがありまして、特権階級が自分たちの利益を守るために多く出させないという、規制緩和どころじゃなくて規制をどんどん作るんですね。お上も手を結んでやっていた訳ですね。

10軒しか質屋がない。10軒しか金を借りるところがない訳です。これを涌井藤四郎は各町に1軒質屋を新設しまして、町金を新設しまして、しかも低利ですね。低利で貸し出すという政策を彼は江戸時代に行っているんですよ。

そして治安です。つまり治安が乱れてはいけないということで、湊町、放火とか起きてはいけませんから、各町に張り番、警護場を設けて、町の男たちが寄り集まりまして、そこで提灯を掲げ、一晩中見回りをし、放火犯が出なかったり、何か治安を乱すような悪い奴が出てこないかということで提灯を燃まして、一晩中ボランティアで町の自警団を作って町を見張る。そういうことを行っております。

そして長岡藩に対しては、今まで検断というのは長岡藩の町奉行が気に入った奴を勝手に選んでいたんですね。ですから自分に近い、要するに金をくれるような人間を選んでいました。それを涌井藤四郎たちは検断を公選にしてくれと。つまり町民の総意による選挙にしてくれという要求を長岡藩に対してもやっています。

まさに本当に自主政府というに相応しい政府がこの新潟湊でなんと江戸時代の半ばにできたんですね。奇跡のようなことですね。それを生んだのは先ほど申しましたように、湊町にはそういう気質、自分達は自分達の町をしっかりとやれるんだという人達が、ある意味で能力の高い人達が湊町にいた。独立した人達がいたということがこうしたことを生んでいる訳です。これは新潟湊に限らず、すべての湊町に共通するようになっていきます。

こうして涌井藤四郎たちは湊町に自主政府を作るんですね。途中、長岡藩は何とか潰してやろうとやってくるんです。長岡藩と新潟湊は信濃川でつながっているんです。ですから長岡藩は船にいろんな武器を積んでやってくる訳ですね。

長岡藩というのは実は質実剛健を旨とした藩です。決して長岡藩は理不尽な藩じゃないんです。牧野家というところが治めますが、これは常在戦場というものを家訓として掲げまして、日常から戦場と思えと。今も長岡駅に行きますと常在戦場という旗が掲げられていますね。河井継之助という人がいて、これがドラマとか小説になっていますが、戊辰戦争のときにガトリング銃というのを出して薩長と戦った。そういう意味では非常に質実剛健なんですね。ですからあまり賄賂とか貰ったりしない。

賄賂政治家というのが江戸時代にはたくさんありました。田沼意次とか吉良上野介とか、賄賂政治家というのは金をどんどん貰っちゃうので、税金はあまり取り立てなくてもいい訳です。ですから自分の地元へ行きますと、税金が安くいい殿様だって、吉良上野介は言われるんです。

というのは賄賂政治家なんて税金はあまり貰わなくてもいい。ところが長岡藩は質実剛健でやっていますので賄賂を貰わない。賄賂は貰わないんだけど幕府の老中になる。老中というのは金が掛かるんです。普通老中になって金が掛かるんですけど、その分職権がありますので金がどんどん集まってくるから成り立っているんですが、長岡藩は質実剛健を旨としていますから賄賂は貰わないでもいい。でも非常に金が

掛かる。それで御用金などどんどん掛けなければいけないくらい財政が悪化していく訳ですね。だからこういう事件が起きるといって、ある意味では歴史の皮肉なんですね。

長岡藩では当時家老が常在戦場を旨としていた山本勘右衛門。今大河ドラマでやっています山本勘助はもともと三河出身です。武田信玄の軍師になります。山本勘助の弟が戦国時代を乗り切りまして牧野と一緒に戦った。与力としてついているんですが、牧野家が大名になりますのでそこに一緒について家老になります。それが実質の権限を仕切っていた訳です。それがこの長岡藩なんですが、その子孫が連合艦隊司令長官の山本五十六。山本五十六は高野家から山本家へ養子に入るんですが、山本五十六まで続いている。そういう志望の家というんですかね、山本勘助と山本五十六のつながりがあるんですね。だからこういう事件が起きたときに彼はどうやって騒動を治めようかと考えるんです。

まず鎮圧部隊を派遣しようと思えますよね。鉄砲、矢を積み込んだ船を長岡藩は送り込んできます。来た、どうしよう、これまた一戦せねばならないということで、五賀野右衛門はまた戦うぞと騒動を指揮しようとしたんですね。ところが、止めろと涌井藤四郎は止めるんです。また騒動を起こせば、また限りない戦いになる。何とか再び騒動にならないようにできないか。

というのは新潟湊もそのあと謹慎しているんです。店を全部閉じて自警団を出して、商売を閉じます。ですから茶屋、料亭も全部降ろしまして、戸を閉めて謹慎、慎みをしている訳です。つまり長岡藩に対してはこれ以上騒動は起こしませんという慎みがあるから、騒動を治める手段を何かくださいということも自分達で主張している訳ですね。長岡藩は送り込んできました。

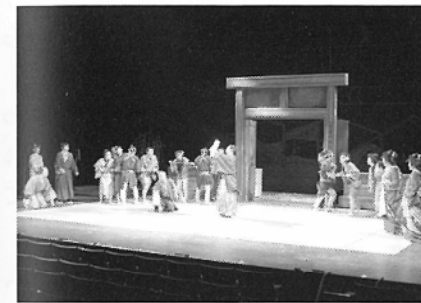
そのときに涌井藤四郎は考えるんですね。このまま戦ったらだめだということで、涌井藤四郎は荷揚人夫達に対して船からの荷揚げを手伝わないようにするんです。宿屋に対しても泊めないようにする。無抵抗主義ですね。ガンジーがそうですね。

長岡藩の船が着きました。見ていると新潟湊は静謐なんですね。何の騒動も起きてない。暴動も起きてない。そして荷揚人夫を頼むんですよ。武器をちよつと揚げろと言ったけど、誰も協力しない。そして宿屋を手配しようとする宿屋も貸さない。ということで、戦いにならないので、長岡藩はすこすこ引き上げます。こういうことを涌井藤四郎はやったところ、長岡藩は何もできない。

そこで涌井藤四郎達はまたまた自主政府を続けることができたんです。ところが長岡藩は先ほど申したように、藩内に一揆がよく起きたんですね。長岡藩がどうやったら新潟湊を懐柔できるか。これは山本勘助の親戚がずっと続いているんですが、頭を使うんです。よし、このまま攻めていっても戦いにならない。戦ってない訳ですからね。これは懐柔策しかないということで、米千俵を使者の今泉岡右衛門という使者、藩の重鎮を送ってきまして、その方らの行動はとても立派である。その後暴動もなく慎み深く身を処し、謹んでおる姿はまことに殊勝である。困窮者もあろう。米千俵を遣わすゆえ、これをみんなに配れ。これが殿のお示しであると伝えてきました。

涌井藤四郎はこれは畏だと断るんです。ところが寄り合い、議会に持ち帰ったところ、実際に困窮者もいる。そのためにこれはやっぱり受けるべきではないかという意見があり、多数決したところ、これは受けるべきじゃないかと多数決で決まりまして、涌井藤四郎は一抹の疑惑を感じながらも、米を困窮者に配るんです。

ところがその後、これは涌井藤四郎の疑念したとおり、懐柔策なんですね。長岡藩は両検断といわれました新潟のトップを解任します。そして町奉行たちも慎ませるんですね。その上で吟味を行う。そのために代表者涌井藤四郎、長岡へ来いというんですね。これでみんなは涌井藤四郎に行っちゃあ長岡藩の罠に嵌まるだけぞと引き止めます。私の小説の中でお雪さんという藤四郎の恋人が出てきます。藤四郎さん、そんなところへ行ったら二度と新潟湊へ戻って来られない。お雪さんというのは、私は新潟樽きぬたという小説でこの事件を書きましたので、お雪さんという芸妓さんと恋になるんですね。藤四郎は若くして奥さんを失って、子どもはいるんですけど、50歳の男がお雪さん、お雪さん。新潟湊に伝わっている樽きぬたという芸は、太鼓の代わりに酒樽というのが



新潟っまいですね。醤油や味噌樽でもなくて酒樽を叩くという、いまだにそういう芸が伝わっています。お雪さんもしかしたらもう会えないかもしれない。でも自分は公のために、この新潟のために逃げるわけにはいかないんだと言って行く訳ですね。

そして行きましたところ罟が待っていて、対決させられて、そっちへ行きましたらもうダメですね。長岡藩の牢にぶち込まれ、涌井藤四郎は翌々年新潟湊へ帰ってきまして処刑されます。そういう事件があります。涌井藤四郎は逃げませんでしたね。自分が責任をとればこの騒動は治まる。

長岡藩、結局200人の人達を捕まえました。涌井藤四郎の死と引き換えにすべてを変える。新潟市に200人ぐらい捕まって牢に入れたんですね。全部解放されました。涌井藤四郎は死にました。

でも志というものは結局涌井藤四郎の命は失われましたが、やがて明治維新につながり、日本の新しい夜明けにつながっていきました。その時に5港が開港になった訳ですね。ですから歴史というのはずっとつながりの中である。新潟湊もそして開国の時代を迎え、横浜、長崎、神戸、そして函館とともに開港の時代をまさに開港され、そしてやがては明治維新につながっていく。そうした歴史が、今はこの新潟明和湊騒動ですが、各都市にはそれぞれの何かしら湊町ならではの話がきつと残っていると思うんですね。

実は私この新潟明和湊騒動というものを書いて、新潟樽きぬたという本を書いたんですが、私自身昔知らなかったんです。こんな騒動が、いわば世界に誇りえるような騒動があったということを私自身も本当に知らなくて、新潟市民も誰も知らなかったです。知らないことは全然恥ずかしいことじゃないんです。歴史小説家である私自身が知らないんです。

ところがあるときに知りまして、ずっと書きたいなと思ったときに、政令指定都市になったんですね。市でも誰かが言ったんでしょうね。新潟湊にこんな歴史があるんだ。それは面白いということで、新潟市、これをぜひ政令指定都市のときの1つのイベントとしてやろうじゃないか。

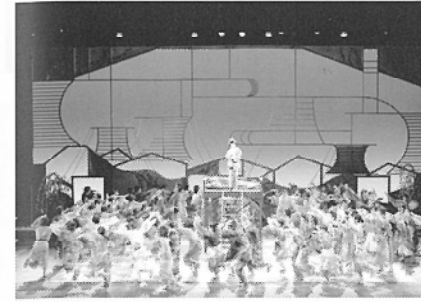
じゃあ火坂さん、せっかく出身なんで歴史小説を書いてください。私が原作を書いて、そして秋田にわらび座というものがありますが、これは地方で活動しているんです。20年ぐらいやっているんですね。自前のビール工場を持っているんです。劇団が温泉を持っているんです。そういう自前で自主独立という非常に珍しい劇団なんですね。これを呼びまして、新潟市で8月31日から3日間にわたって明和義人というミュージカルを行いました。

わらび座の俳優さん達が20人ぐらい来たんですが、主演俳優・涌井藤四郎、そして参謀役、これは劇団の方ですね。お雪さんという涌井藤四郎の恋人も劇団の女優さんがやりました。ところがさっき言いました奉行、長岡藩の石垣忠兵衛は一般市民の人がしたんです。これが大変な名演でびっくりしたんです。病院で技師さんをやっている方ですが、劇団の俳優とあまり変わらないです。そこに新潟の樽きぬたを伝承している少年たちとか少女たちが演奏しました。その樽は凄かったです。みんな感動したんです。

新潟では大変な盆踊りがあり、それを一般市民が進言したという歴史がある。それを舞台で再現してみたいということで、新潟市民や新潟総おどりのメンバーが、最後に処刑された涌井藤四郎の周りで総踊りがありました。いろんな人達が200人ぐらい舞台に出演しました。

私はわらび座の小島代表に、「地方公演であり、これだけいろんな悪条件の中で非常にすばらしい演技だった。」と言ったんですね。その後のわらび座の小島代表の一言に驚きました。小島代表が、「私は今回びっくりしました。わらび座はいろんなところでやっていますが、こんなに力のある人達、新潟の力というものを私は本当に今回の演劇で感じました。私は大変感動しました。」と仰っていたんです。

言われてみて、ああそうかなと。私はわらび座の方がすごいなと思ったんですが、小島代表が本当にそんなことをしみじみと仰っていたので、これがまさに湊町の持っているパワーじゃないかなと私は思いました。



そしてこの演劇、最初はみんな地味だ、明和事件、涌井藤四郎なんて知らないと言っていたんですね。ですからチケットも新潟で販売したんですけど、初日は80%ぐらいだったんですね。瀬戸口郁さんという人が素晴らしい脚本を書いて、みんながこの脚本はいいと言っていたんです。これは凄なものになる。関係者は言っていました。ところが一般の人達は知るはずもないですから、初日80%しか売れず、2回目、3回目、4回目、これが60%しか入らない。新潟市も困ってしまっていて、火坂さん原作者なんだから誰か知り合いいませんか、お父さんの知り合いでもいませんかと私のところに電話がかかってきました。そんなことを言われても、うちの親父もいろいろ売ってくれたんだから、いままらいませんよと言ったら、ああ、そうですかと。舞台になるまで私も原作者としてすごく不安だったんです。

ところが舞台の幕が開いたらあまりにもすごい舞台なのでびっくりしまして、初日に見に来た人が2度、3度、全部見たいという人まで現れまして、初日見た人が口伝で素晴らしい舞台で私は泣いてしまったと言って、口コミで伝わりまして、いつも満席で立ち見まで出る大成功だったんですね。私も非常に感動しまして、初日も最後まで泣いてしまいました。

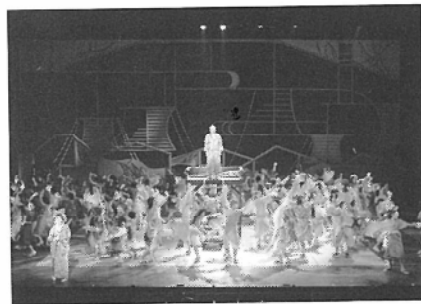
そしてそのミュージカルで見た方がこんなことを仰っていました。「私は新潟に生まれながら新潟の歴史というのをよく知らなかった。今回見て初めて新潟に生まれてよかったと思った」。私はこの言葉を聞きましてやってよかったと思いました。

水を飲ませてもらいます。気を取り直さないと舞台の感動が甦ってきます。

そんなことで私も大変うれしい思いをしました。そして私自身新潟に生まれてそんな小説を書けて本当によかったなと思っているんです。新潟樽きぬたを書いて。

『天地人』はここ新潟県を舞台にした小説です。NHK大河ドラマに決まって再来年それが放映されるということも、故郷のために本当によかったなと思うんですが、それ以上と言ってもいい、新潟樽きぬたという小説を書けて、新潟の心を書けて本当によかったと思っています。

また舞台と小説は全く違うものになっておりまして泣けます。ぜひ小説をまた読んでいただければ幸いです。今日は新潟に限らず遠くから本当に5都市の方々、来ていただいてありがとうございました。新潟は今も花町があります。そして新潟独特の食文化などもあります。新潟では菊、食用菊を食べます。他の地方ではあまり食べませんが、紫色の柿のもと、新潟ではいろんな言い方で言うんですが、こっちの地方はなぜか秋になると菊なども食べます。食文化も独特のものがありますので、そんなものを楽しんでいって頂ければ、これに過ぎる喜びは新潟市民としてありません。今日はどうもありがとうございました。ご清聴ありがとうございました。





# 全体会議-1

日時 2007年11月9日(金)14:00~16:30  
会場 朱鷺メッセ マリンホール  
<司会> 有限会社ビープロデュース 瀬賀知代

【第1部】14:00~15:05(受付13:30~)

主催者挨拶 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
実行委員長 小柳行弘(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)

来賓挨拶 新潟市副市長 堀川 武

映画『新にいがた市紀行』上映(当会初上映)

水合わせの儀

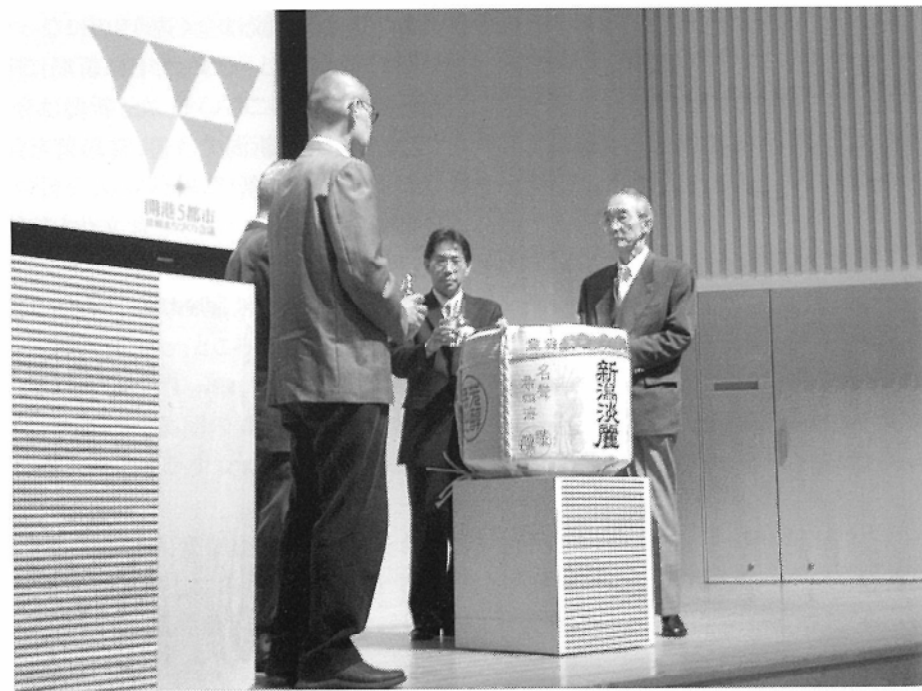
開港5都市参加団体紹介および活動報告

函館市	函館の歴史的風土を守る会	落合治彦
横浜市	NPO法人横浜シティガイド協会	嶋田昌子
神戸市	旧居留地連絡協議会	野澤太一郎
長崎市	大浦青年会	桐野耕一

【第2部】15:10~16:30

基調講演「新潟湊と明和義人」 火坂雅志氏(小説家)

<受付フルート演奏> 新潟市都市政策部都市計画課 大岩勝衛



開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
実行委員長 小柳行弘

NIIGATA

皆様ようこそ新潟へお越しくださいました。開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会をこれから開催します。函館、横浜、神戸、長崎の皆様、平成5年からこの会議は続けておりますが、新潟大会は今日で3回目です。第1回は寒い冬、先回は暑い夏でしたが、今回はとても気候のいいこの秋に開催します。

会を重ねるたびに各港の方々と絆がだんだんつながれていくようで、とても私は感動しております。今回も先ほど入り口で皆様の元気な姿を拝見しましてとても安心しております。

今回は秋の新潟ということで、新潟は収穫の秋ということで大変に美味しいものをたくさん準備しております。

さて、新潟にはここ数年大きな災害が何度も襲ってきましたが、このように新潟市では元気でやっております。これも皆様の支援と応援のおかげかないつも感心しております。

また、今回は新潟の実行委員会ではいろいろな企画しまして、各港の方々に楽しんでいただいたり、また新潟のことを厳しく「こうあるべきではないか」というようなことを語り合っていたりという会にしたいと考えておりますので、ぜひとも各港の方々、また市民の方々がたくさんの方所で交流できればと思っております。

さあ、これからの3日間、皆様と一緒に新潟で開港5港というキーワードで存分語り合ってください、また各港で語り合ったことを参考にしながら、各自のまちづくりに反映させて頑張っていきたいと思っています。

「なじらね、新潟」。皆さんこの言葉を知っていますか。「なじらね」というのは元気ですかという意味です。今回はできるだけうちの新潟スタッフが新潟弁を使おうかなと考えております。それには先ほど配られたパンフレットの中の最終ページに新潟弁講座ということで記載しておりますので、ぜひ一言でも覚えていただいで、全国で新潟弁を使っていたらうれしいと考えています。

田園と港の出会いまち、政令指定都市新潟、この新潟で皆さんと一緒に語り合しましょう。

来賓挨拶

新潟市副市長 堀川 武 様



皆さんこんにちは。ようこそ新潟へおいでいただきました。ただいまご紹介いただきました新潟市の副市長の堀川です。開会にあたりましてご挨拶を申し上げたいと思います。本日ここに函館、横浜、神戸、長崎という日本を代表する港町から、熱心にまちづくり活動をされている市民の皆様をお迎えし、開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会が盛大に開催されますことをお祝い申し上げますとともに、81万市民を代表して心から歓迎をいたします。

また、本会議の開催にご尽力をいただいた新潟市民の皆様には改めて敬意を表しますとともに、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき深く感謝申し上げます。今回の大会テーマである「実りの秋 にいがたへ来なせや」「田園と港が出会うまち、政令指定都市・新潟で語り合おう」にございますとおり、本市は本年4月に本州日本海側初の政令指定都市として新たな船出をいたしました。

本市は平安時代から蒲原の津として知られ、江戸時代には北前船の最大寄港地として栄えた新潟湊と、その港町を取り巻く田園地帯が支えあい、育んできた歴史に学び、田園と港町が互いに恵みあい共に育つまちをこれからの都市づくりの基本理念に掲げております。

本会議で開港5都市の交流がさらに深まり、それぞれのまちづくりの進展につながる

ことを期待しております。

本市では来年5月にG8労働大臣会合の開催が決定しており、主要国の閣僚をお迎えするほか、再来年には本市出身の火坂雅志さん原作で新潟が舞台となるNHK大河ドラマ「天地人」の放映、トキめき新潟国体の開催、JRデストネーションキャンペーンの実施など、新潟を国内外にアピールできる絶好の機会が連続することから、2009年を新潟大交流年と位置づけ、交流人口の拡大と地域の活性化に向けたさまざまな取り組みを進めております。

また本年7月に発生いたしました新潟県中越沖地震の際には、全国各地の大勢の皆様からさまざまな分野におきまして、被災地救援、復興にご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

幸い本市には大きな被害はありませんでしたが、県内最大の拠点都市として、また政令指定都市として被災地の一刻も早い復興に向けて、延べ3,800人の職員を派遣するなど、全力で支援を行ってまいりました。全国からも温かいご支援が寄せられ、被災地の復興は日に日に進んでおりますが、一方で現在も困っておりますのは、本市を含め新潟県全体に対する風評被害です。

震災以後、実態と全く異なる風評が生じ、県内の観光地などでは予約のキャンセルが相次ぐなど、観光面や宿泊面に影響が生じております。

私どもも風評を払拭するため、新潟は元気であること、新潟の海は安全であることなどを機会をとらえて全国に発信するとともに、新潟を一層元気にしていく努力を行っております。

明日行われる各分科会で市内各地を訪れていただいた際には、皆様からも新米や地酒、新鮮な日本海の幸など、まさに新潟の実りの秋を存分にご堪能いただき、ぜひ新潟のPRにお力添えを賜れば幸いです。

終わりに、本会議のご発展とご参会の皆様方のご健勝を祈念申し上げ、挨拶いたします。どうもありがとうございました。そしておめでとうございました。

#### 各都市参加団体紹介及び活動報告

### 函館市

函館の歴史的風土を守る会 落合治彦 様

### HAKODATE

歴風会は奇しくも来年30周年を迎えます。ちょうど先輩たちがこの会を作り上げたときは非常にたくさんの画家や学校の先生、その他たくさんの市民の方に応援していただきまして、180名くらいのメンバーでスタートしました。今はだいぶ減っておりますけれども、細々と、そして連綿と会は続いております。

会は現在180名から60名くらいに減っております。しかし、メンバーは非常に和気藹々と仲良く会を運行しておりまして、一番困っていることは平均年齢が70を超えたメンバーが多くて、その補充がつかないことです。

来年30周年に向けまして記念誌の作成と、それから、テレビ会社と組んで今函館に現存する古い建物30棟をビデオによる保存、記録の作成をしております。今大体20棟を終えまして、もう少しで目標が達成できます。

歴風会では30年間、歴風文化賞というものを選定しまして、これからもお願いしたいという期待を込めまして1年に2、3件、多くて5件、差し上げております。そのほかに個人とか団体がその町並み保存に協力されている方を選考しまして、その方々にも差し上げております。

さらに1年に1カ所、まちの原風景として私どもが小さいときから見慣れて育ったその場所を顕彰する宣言を繰り返しております。200カ所にわたる建造物、所有者の表彰と、100人近い個人、団体の表彰を終えまして、25カ所の原風景を選定、宣言しております。



### 横浜市

NPO法人横浜シティガイド協会 嶋田昌子 様

### YOKOHAMA

皆様こんにちは。私憧れていました。この会場に一度立ってみたいかったですね。それを叶えていただくことができ大変うれしゅうございます。横浜の与えられたお時間5分ということで、横浜の景観を見ながら、それぞれの活動している団体のお名前だけを紹介するにとどまると思いますが、それぞれの時にお立ちいただいて、会場の方へにご挨拶いただこうと考えております。

まず出ました。横浜でございます。実は昨年度、この横浜、2006年度グッドデザイン賞の金賞を受賞いたしました。この景観を見ていただくとおわかりのように、手前が赤レンガ倉庫、そして向こう側にみなと未来21、見ていただくと富士山がちらりと見えているんですね。白く欠けているようですね。

こうした横浜、全体の普通ですと自治体だけ、あるいは単独の施設ということですが、本当に横浜市全体がおめでとつといわれたようで大変うれしゅうございます。都市デザイン賞、できて何年でしょうか。今日も長く都市デザイン室で頑張っている国吉さんともまいました。

さあ、そして横浜の中、ランドマークタワーのちょうど下あたりから開港の道という道がございます。この道を辿りながら少しずつ山手のほうに登っていきますので、その度ごとに団体をご紹介していこうと思います。

開港の道、開港150年を迎える横浜、そうした歴史的な建造物、あるいは景観というものを辿りながら山手を歩いていく大変素敵な道でございます。この先へ行きますと、このカーブしたところ、ナビオス横浜という建物のお腹にゲートが開いていて、この向こうに見えるのが赤レンガ倉庫、横浜の過去を見て、そして向こう側からはランドマークが見えるということで、未来が見える、そうしたゲートでございます。横浜のゲートウェイはなかなか手が込んでおりまして、開港の道を歩いてまいりますと赤レンガ倉庫にやっております。こちらもオープンして数年経って、本当に市民の中に定着いたしました。おめでとつ風船がこのあと上がるんですね。はい、おめでとつという訳でございます。そしてそれから水を隔てた向こうが大棧橋、大きな船が入っているのをご覧いただけますでしょうか。開港150年の時までに、これからももっともつとたくさんの外国の方々を迎えたいと思います。

そしてそこから新港橋を渡りまして行きましたところが関内でございます。関内を愛する会の方々、ちょっとお立ちください。きょうは2人のメンバーがこちらに伺っております。皆様のお手元にこういう冊子が届いていると思いますのでどうぞご覧ください。今関内では日本大通を中心にカフェテラスというのが大変はやりなんですね。まるで日本ではないというように皆さんに喜ばれております。

そしてそこから山下公園を通りまして山手に登ります。山手の西洋館数々ございまして、ちょうど右下、これが山手の234番館、アップになりました。ここで私どもきょう山手に関わるメンバーが出会ったわけですから。それでは山手のメンバー、こちらの山手まちづくり推進会議のメンバー、ちょっとお立ちくださいませ。本当にフルに完全に出席してまいりました。

そしてこのメンバーがやっておりますのが、次のところでチューリップアート、山手のまちづくりということでチューリップを生かして、新潟の皆さんいつもありがとうございます。





摘みに来ております。そして摘みに来ている部分、これが今年の春でございます。一方、TAP、いわゆるチューリップアートプロムナード、もう1つの形がございまして、こんないろいろなところに飾っておりますが、実は海の汽水域、こちらに飾っているチューリップアート、チューリップフロアプロジェクト、こちらをBankART1929のメンバーが今回関わりました。BankART1929の池田さんはじめお2人どうぞ。

様々なグループが様々なところで活動しております。本当に新潟のチューリップをこうして横浜の町に生かし、開港5都市のつながりが深くなるのはうれしゅうございます。実はこの出会いというのは長崎でした。長崎の観光船の上で初めて出会ったのを覚えています。

関内は皆さんのまちにもいくつか塔がございましてね。横浜三塔と申しまして、3月10日、ジャック、キング、フィリ、こうしたものを1つの港町のシンボルとしてもう少しまちづくりに生かしていこうということで頑張っているのが、今日伺いました横浜シティガイド協会でございます。

さあこうした歴史的建造物、夜の景観を少しお見せしたいと思います。横浜ライトアップも実は都市デザイン室の仕掛けで始まったわけですが、きれいでございますね。最近ではサックスキャンドルということで、揺らめく炎、こうしたものをまちづくりの中で生かしております。

さあ横浜いよいよ150年を迎えますが、150年前の横浜を最後に見ていただこうと思います。こちらで見る、さあこうした港から対岸にあたるそうしたところでお台場というのがございます。最近では神奈川お台場フォーラムをやっております、社団法人神奈川地域活性化推進協会の皆さんの立ちくださいませ。もう数年参加しております。

そしてまた港に戻りまして、150年前の横浜から今の横浜に移りました。こうしたところ、象の鼻地区がこれから大きく変わって、2年後2009年、皆様方を開港150周年の年、横浜開催の開港5都市景観まちづくり会議で皆様をお迎えしたいと存じます。皆様また元気で横浜においでください。お待ちしております。

## 神戸市

旧居留地連絡協議会 野澤太一郎 様

きょうの会議の準備をいろいろやっただきました新潟大会実行委員会の皆様方に御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

神戸市、我々民間団体でございますが、正式には神戸市景観形成市民団体連絡協議会と申しますが、神戸市内で景観や町並みづくりに取り組んでいる市民団体の集まりで、現在は11の組織で構成しております。

市民団体間の情報交換、共同での研修、研究、あるいは親睦を目的に平成5年に設立したものでありまして、構成団体の各地区はいずれも神戸を代表する個性ある町並み景観を形成しているまちでございます。

神戸開港140年になるわけでございますが、神戸の港は慶応3年12月7日に開港されました。横浜、長崎、函館よりも10年近く遅れての開港でありましたが、今年は神戸開港140年にあたります。

そのためだけではありませんが、神戸港の随所でイベントが催されております。その1つとして、現在神戸ビエンナーレ2007が、出会い・ひと・まち・芸術をテーマに開かれております。

神戸の芸術、文化の振興を図るとともに、まちのにぎわい、活性化につながる試みとして、ほぼ2年に一度開催されることになっております。

主会場であるメリケンパークではコンテナという限られた空間を使った現代アートや陶芸展、いけばな展などの多彩なジャンルの展示、パフォーマンスなどがなされております。またウォーターフロントから山手を含む神戸の都心の間を気軽に移動してもらうための交通実験として、秋の2週間ほどちよい乗りバスが運行されました。具体的には山手の北の山本地区と海沿いの旧居留地をつなぐ延長3キロメートルの循環ルートに10カ

所の停留所を設けまして、10分間隔で運行されるバスに100円で乗れる仕組みであります。

一方、かつては物流が中心であったウォーターフロントを市民に開放しようとする動きも盛んでありまして、メリケンパークのすぐ隣にある新港第一突堤を文化・交流・集客の場とするための事業コンペが行われ、物販店、専門店、あるいはホテルが平成21年9月開業をめざして開設されることになっております。

もう1つ、ウォーターフロントが市民に開放される例としまして、海上都市であるポートアイランドがございまして、もともとコンテナバースでありました場所に3つの大学を誘致しまして、既存のものと併せて4つの大学があるキャンパス地区を構成することができました。

ウォーターフロントの幅は50メートルの带状公園に接した22ヘクタールの区域に3大学が新設されまして、この4月に開校いたしました。数年後には4大学合わせて8,000人の学生がここで学ぶこととなります。

次にポートアイランドの先には神戸空港があります。これは昨年この場でも報告させていただきましたが、昨年2006年6月開港いたしました、ここ新潟との間の定期便は残念ながら今年の6月に廃止されましたが、新たに石垣便が設けられるなど、神戸の活性化に非常に役立っております。

このように神戸の都心ウォーターフロントでは市民開放に向けたさまざまな動きがあります。これに対しまして将来にわたる景観形成を担保するため、ことし8月、神戸市では都心ウォーターフロントを都市景観条例に基づく都市景観形成地域に指定されました。眺望路という概念を持ち込み、まちから海への視線を確保し、海を感じることでできるまちづくりを進めようとしております。今後とも我々民間と行政が協働して、開港都市としての魅力を一層育んでいきたいと存じております。これで神戸の報告を終わります。ありがとうございました。

## 長崎市

大浦青年会 桐野耕一 様

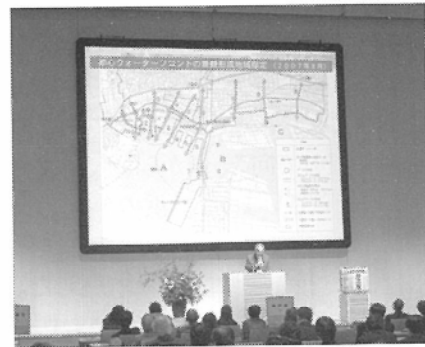
長崎を代表して私桐野が話をさせていただきます。昨年長崎に皆さんお越しいただきまして、ちょうど最後の会の時に今日実行委員長をされていらっしゃる小柳さんが、新潟は11月の9、10、11でやりますからといきなり宣言をされまして、本当かなと思ったら、本当にその日にピタリ標準を合わせて開港5都市会議の新潟大会が開かれたというのにびっくりしまして、本当に1年前に言ったことがそのままされたんだなと思って、本当にご苦労に感謝しております。

それでは長崎で私は大浦青年会というところでまちづくりの活動しておりますが、その事例につきましてちょっとお話をさせていただきます。

これはちょうど皆さんが昨年長崎においでいただいたときに、2006年ですが、長崎のまちを歩こうという博覧会を開催いたしまして、4月1日から10月29日までの212日間に、長崎市民がなんと5,800回に及ぶまち歩き博覧会をやったときの映像なんですけれども、ちょうど私も活動しております大浦青年会の地区は長崎の旧外国人居留地という場所で、東山手地区、南山手地区、大浦地区というところでまちづくりの活動しておりますが、今回のサルク博でも私どものメンバーが3名ガイドとして、私もその1人だったんですが、たくさん昨年はまち歩きをさせていただきました。

これもその映像の1つですが、26聖人の映像ですね。それからこれは唐人屋敷といって、中国色が強いエリアの写真でございます。

この方は春先テレビで非常に全国的に有名になりました。長崎、実は今年は悲しい出来事がありまして、それ以降いろんなことがあったんですけれども、新しい市長ということで田上市長が出ておりますが、実はこの田上市長も今は市長さんになってしまいましたけれども、私どものまちづくりの本当に親しい仲間、行政の親しい仲間の1人だった



んですが、市長になられてから、これは今年の写真だと思うんですが、つい先日じゃないでしょうか。マスコミを引き連れて歩いているところを見ればそうじゃないかなと思いますが、彼が作りましたコースをご案内しているということで、今長崎では博覧会は終わりましたが、まだ長崎サルクということで町歩きを継続して行っております。長崎のまちはずっと町を歩くまちだと。まち歩きのまち長崎というのをテーマにしておりますので、現在の市長もこうやって暇を見つけては歩いているという映像ですね。

そして私たちの地域のこれはイベントなんですけれども、大浦青年会という会は四季を通じてそのまちに住む、居留地地区、大浦地区に住む人たちが自分のまちを愛しているということで、いろんな意味のイベント、地域行事に関わりながらやっております。これは代表的なイベントの1つ、毎年9月の最終土日に行われています長崎居留地まつりという祭りの映像ですが、上の坂道を子どもが走っている映像、これは大浦天主堂につながるオランダ坂を駆け上がるというただそれだけのイベントですが、非常に人気のイベントです。下はボーリング発祥の地ということで文久元年のボーリングを楽しんでいるという様子です。

そして後方、大浦天主堂が見えておりますが、今年非常に人気がありましたイベントの1つだったんですけれども、国宝の前でアリアを聴こうという企画をいたしまして、まさに大浦天主堂の前で長崎といえばマダムバタフライということで、ぴったりアリアが似合うまちだろうということで、ましてや南山手、国宝の大浦天主堂の前はなおさらのことだということで企画したんですが、非常にすばらしい、自分達で言っちゃなんですが、何と言ったらいいんでしょうかね。すばらしいイベントになりまして、自己満足に浸っていたところなんですがこの映像ですね。

ここも先ほど横浜、神戸の美しいまさに都市の美しい夜景を見せていただきましたけれども、これは大浦天主堂に通ずる坂道、先ほどの駆け上がり大会の坂道なんですけど、この両サイドの明かりは実は家庭用の廃油を使いましてキャンドルを使ってそれを並べたときに、キャンドルロードを作ってみようということでやったイベントの1つです。これもそれなりに手作り感のあるきれいな映像が撮れています。

ここに今日新潟に来て思いました。駅に着きますと、長崎はまだ銀杏は色づいておりません。ところがさすが北のほうになると、新潟に来ますともう駅周辺が銀杏の木がきれいに黄色く色づいていてきれいだなと思って見ておりました。

まさに目の前に銀杏の木があります。これ銀杏の木がなんとクリスマスツリーに変身しているという、クリスマスツリーは一般的にはモミの木なんですけど、実は私ども大浦青年会は地域の人達とともに、このまちにあります小さな小さな公園なんですけど、松代公園という公園のと真ん中に1本銀杏の木があるんですね。その銀杏の木を毎年、11月に1ヵ月間かけて製作をします。公園中をイルミネーションで本当に小さい子どもさんから年配の方までお手伝いをいただいて、手作りで1つの公園をイルミネーションの公園にするということで、ツリーは真ん中に銀杏の木があるから銀杏の木でもいいかということで、クリスマスツリーにやったということで、おそらく銀杏の木がクリスマスツリーになっているのは、世界中探してもここだけしかなかっかなかやろうかというふう思うんですが、こういう映像を見ていただいております。

これもそのときの点灯式の様子なんですけれども、地域の子もたちといますか、地元の中学生在がプラスバンドとして演奏に参加してくれて、子どもたち自身もこうやって意識的にサンタさんの格好をしてやってくれているということで、僕たちが要望しているわけじゃないんですが、自らも楽しんでこういうふうなイベントに参加しているという映像です。

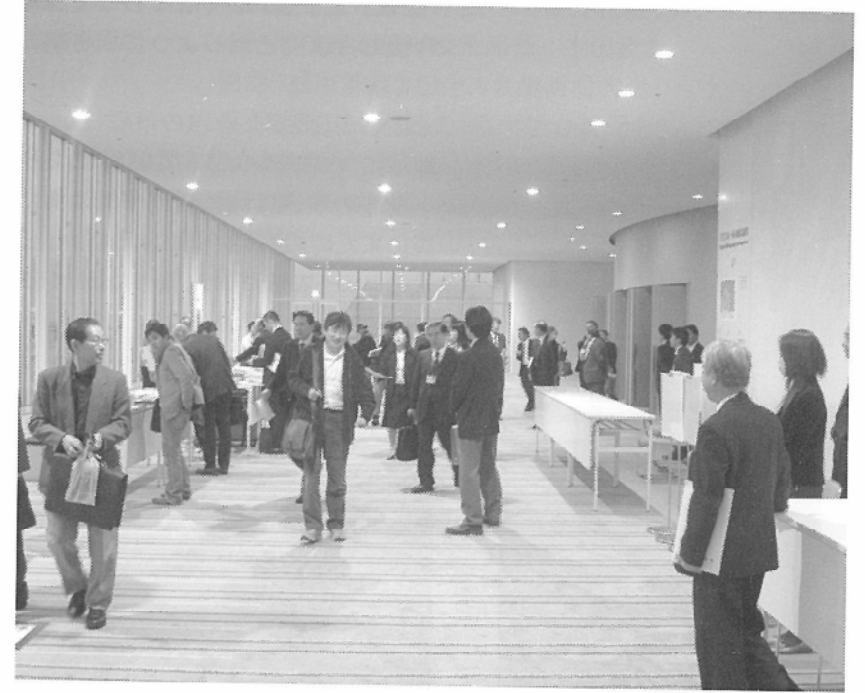
これもそうですね。そのときの映像なんですけれども。

今ちょうどこの大会が行われているときに、明後日もそうなんですけど、このツリーを今年5年目の行事になるんですけれども、みんなで今作っているところで、私はちょっと今回はこの大会に参加しているために工事はできないんですが、点灯式を今年も11月の24日にされまして、約1ヵ月間点灯しております。

近くには長崎きっての観光地でありますので、グラバー園ですとか大浦天主堂を

控えておりますが、そういった素晴らしい施設の中の、冬のイルミネーションとまた違った地元の人たちが手作りでやっているこういうイベントも行われているということで、紹介をさせていただきました。

ということで今回長崎の場合は一般的に今まで長崎は町全体の様子をお話させていただくことが多かったんですが、私ども今回は大浦青年会ということでまちづくりのこういった会合に参加させていただいて、身近なまちでどんなことをやっているのかということで、簡単ですがご紹介をさせていただきました。





# 新にいがた市紀行

## 「温故知新」

田園と港と川がつくった地域の伝統と歴史。

歴史が新潟を美しくする。

日本海側初の政令市【新生・新潟市】誕生。

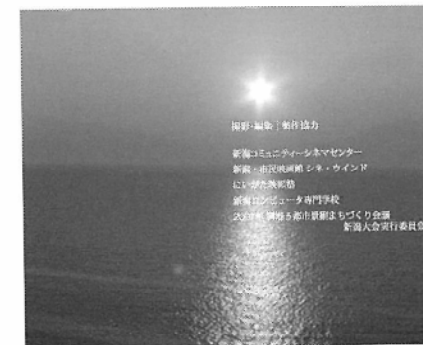
しかし、新生・新潟市となっても旧市町村が培ってきた

「伝統」「歴史」がなくなるわけではなく、

今後も今までと同じように引き継がれていく。

旧新潟市をはじめ14の市町村が一緒になって誕生した新生・新潟市。それぞれの地域について、もっと知りたい。ここから、映像づくりがはじまりました。

前半の映像は「昔、新潟平野は海だった」に次いで、新潟湊へ初めて外国船が調査に来た時の当時の絵による紹介、三代目萬代橋誕生の紹介、坂口安吾の碑除幕式のニュース紹介など。後半は旧14市町村の話題をひとつずつ映像にしてみました。



製作 新にいがた市紀行 製作実行委員会

# ウェルカムパーティー

日時 2007年11月9日(金) 17:30~19:30  
 会場 ホテル日航新潟 30階 鳳凰  
 <司会・進行> NPO法人にいがた湊あねさま倶楽部

主催者挨拶 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 実行委員長 小柳行弘(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)  
 来賓挨拶 新潟市技監兼都市政策部長 本田武志  
 乾杯 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会  
 実行委員 本間龍夫(協同組合新潟あきんど塾)

各都市参加者の紹介と挨拶

函館市

横浜市

神戸市

長崎市

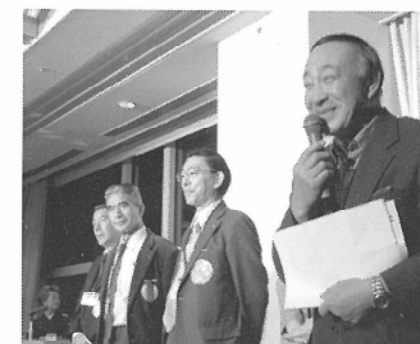
余興1 新潟うんちくクイズ

余興2 フルートとギターの二重奏(ビートルズナンバーほか)

ギター:NPO法人新潟水辺の会 森本利

フルート:新潟市都市政策部都市計画課 大岩勝衛

中締め 「砂山」合唱



# 各都市代表者会議

日時 2007年11月11日(日) 9:00~10:00  
 会場 新潟市中央図書館  
 <司会> 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 事務局長 森本 利(NPO法人新潟水辺の会)  
 開催都市 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 代表挨拶 実行委員長 小柳行弘(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)  
 開催都市 新潟市都市政策部都市計画課長 相田幸一  
 行政挨拶  
 各都市出席者挨拶  
 議題 議題1 大会アピールの採択  
 議題2 次回開催都市の決定  
 議題3 その他

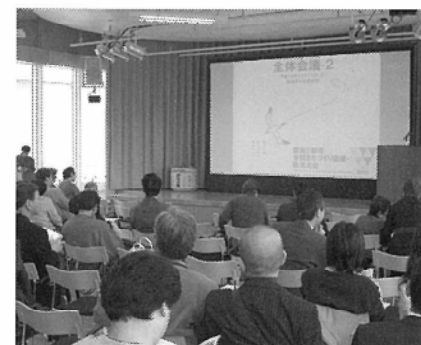


# 全体会議-2

日時 2007年11月11日(日) 10:00~11:30  
 会場 新潟市中央図書館  
 <司会> 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 副実行委員長 田澤則夫(タザワアトリエ)

## 分科会報告

- 第1分科会 『新潟湊と町民自治』  
皆川袈裟雄(KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所)
- 第2分科会 『川がつくった人の営みと物流~栗ノ木川の生涯~』  
斎藤栄路(市民大学新潟学の会)
- 第1・2合同分科会 『萬代橋、信濃川「新潟港の歴史と現在」』  
保坂芳樹(萬代橋ファン倶楽部)
- 第3分科会 『食と景観~行って、見たい!食べたい!触れてみたい!~』  
柳澤 茂(サンクプロム石山商店街協同組合)
- 第4分科会 『水が育んだ自然と食文化を体感』  
竹内啓祐(万代シティ商工連合会商店街振興組合)
- 第5分科会 『花景観・チューリップのふるさと』  
関 京子(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)



各都市代表者会議報告 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 事務局長 森本 利(NPO法人新潟水辺の会)  
 大会アピールの発表 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 副実行委員長 高松智子(日本ユニバーサルカラープランナー協会)  
 大会旗の引継ぎ  
 次回開催都市代表挨拶 函館市 函館の歴史的風土を守る会 落合治彦  
 水合わせの儀  
 主催者謝辞 開港5都市景観まちづくり会議新潟大会実行委員会  
 実行委員長 小柳行弘(にいがた花絵プロジェクト実行委員会)





# 開港5都市 景観まちづくり会議・ 新潟大会

## 大会アピール

木々の色が深まるこの秋、景観まちづくり会議が、新潟で開かれた。  
秋の新潟の空はどこまでも高く、大河信濃川で夕日を浴び溯上する鮭の群れ。  
そして、実りの季節を迎えた越後平野は黄金色に輝く。

「実りの秋 にいがたへ 来なせや」

～田園と港が会えるまち、政令指定都市・新潟で語り合おう～

をテーマに3日間、ここ新潟で、歴史的開港を機に、

それぞれ固有の文化を創造してきた5つの市民が集い、熱き思いを語り合い、  
13回の歴史を重ね、友情を深めた。

近年、日本各地を襲う災害は私たちに、自然環境との向き合い方と  
人と人とのコミュニケーションのあり方について考える機会を与えた。

ここから、いま一度景観まちづくりを考えなおしてみたい。

我々市民が主体となって、人と人、まち、自然とが一体となる  
景観まちづくりについて、議論を深めていこう。

2009年、開港から150年を迎える。

本大会に参集した市民が、見聞し、感じとったものを糧として、

開港5都市がそれぞれ魅力あるまちづくりに努め、

景観都市形成に資することを確認し、

ここに宣言する。

2007年11月11日

開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会



■主催

開港5都市景観まちづくり会議  
新潟大会実行委員会  
(新潟市都市景観形成市民団体連絡協議会・新潟市で構成)

明日の古町を考える会

一番会

KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所

サンクプロム石山商店街協同組合

市民大学新潟学の会

タザワアトリエ

協同組合新潟あきんど塾

NPO法人新潟水辺の会

にいがた花絵プロジェクト実行委員会

NIIGATA光のページェント実行委員会

日本ユニバーサルカラープランナー協会

万代シティ商工連合会商店街振興組合

萬代橋ファン倶楽部

新潟市都市政策部都市計画課

■参加団体等

函館市

函館市伝統的建造物群保存会

函館の歴史的風土を守る会

函館市都市建設部都市デザイン課

横浜市

NPO法人横浜シティガイド協会

関内を愛する会

社団法人神奈川地域活性化推進協会

BankART1929

山手まちづくり推進会議

横浜市都市整備局都市デザイン室

横浜市開港150周年・

創造都市事業本部戦略的事業誘致課

神戸市

魚崎郷まちなみ委員会

美しい岡本協議会

株式会社地域問題研究所

北野・山本地区をまもり、そだてる会

旧居留地連絡協議会

神戸南京町景観形成協議会

神戸元町商店街まちなみ委員会

栄町通りまちづくり委員会

新長田駅北地区東部いえなみ委員会

神戸市都市計画総局地域支援室

長崎市

大浦青年会

平和公園地域まちづくり協議会

三ツ山町犬継地区景観まちづくり協議会

長崎市都市計画部まちづくり推進室

新潟市 一般参加者

■後援団体等

国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所、

新潟県、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、

毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、

産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、

時事通信社新潟支局、共同通信社新潟支局、

新潟建設工業新聞社、株式会社建設速報社、

株式会社日刊建設工業新聞社北陸総局、

株式会社日刊建設通信新聞社新潟支局、

NHK新潟放送局、BSN新潟放送、

NST新潟総合テレビ、TeNYテレビ新潟、

UX新潟テレビ21、ケーブルネット新潟、

エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、

FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、

エフエム角田山コミュニティ放送株式会社

■協力団体等

石本酒造株式会社

今代司酒造株式会社

岩室温泉芸妓置屋組合

岩室温泉自治会

岩室かつぼうぎ隊

NPO法人にいがた湊あねさま倶楽部

かき正

株式会社北光社

株式会社日園

国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所

財団法人北方文化博物館

市民の会の会

社団法人日本バーテンダー協会新潟支部

新にいがた市紀行製作実行委員会

宝山酒造株式会社

ちあきの会

長照寺

新潟県酒造組合

新潟県立植物園

新潟市秋葉区産業振興課

新潟市観光ボランティアガイド

新潟市中央図書館、新潟市歴史博物館

新潟万代島総合企画株式会社

にいつ食の陣実行委員会

萬代橋周辺の景観を考える右岸市民の会

萬代橋まちづくりフォーラム事務局

BSN新潟放送

ホテル日航新潟

堀川醸造株式会社

水の駅「ビュー福島潟」

道の駅「花夢里にいつ」

有限会社ビープロデュース

開港5都市景観まちづくり会議規約

(名称)

第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。

(目的)

第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(活動)

第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。

(ア) 情報の交換

(イ) 共通の課題に対する調査研究

(ウ) その他、前条の目的達成に必要な活動

(組織)

第4条 1 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。  
2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(会議)

第5条 1 景観まちづくり会議の会議は、定期大会及び代表者会議とする。  
2 定期大会は、原則として年1回会長が召集し開催するものとし、代表者会議は、会長が必要に応じて召集することができる。

(役員)

第6条 1 景観まちづくり会議に会長を置く。  
2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもって充てる。  
3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。  
4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。

(事務局)

第7条 1 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。

(規約の改正)

第8条 1 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。

附則

本規約は、平成11年10月11日から施行する。



## 開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会実行委員会規約

(名称)

第1条 本会の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会実行委員会」(以下「実行委員会」という。)と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、安政5年に開港港に指定された函館、横浜、神戸、長崎及び新潟の5都市の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切に守り、愛着を持ってそだて、個性豊かで魅力のあるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議する「開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会」(以下「新潟大会」という。)を開催し、もって開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。

(事業)

第3条 実行委員会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1)新潟大会の企画、運営
- (2)その他、前条の目的達成に必要な事業

(組織)

第4条 1 実行委員会は、景観まちづくりを实践する新潟市都市景観形成市民団体連絡協議会及び新潟市の代表者、構成員及び職員等で構成する。  
2 必要に応じ、第3条の目的に賛同する関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。

(役員)

第5条 1 実行委員会に、以下の役員を置く。  
(1) 実行委員長 1名  
(2) 副委員長 2名  
(3) 会計 1名  
(4) 監事 1名  
(5) 事務局長 1名  
2 役員は、委員の互選により選出する。  
3 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を総理する。  
4 副委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長に事故あるときは、その職務を代理する。  
5 監事は、会計を監査する。

(部会)

第6条 1 実行委員会に、以下の部会を置く。  
(1) 全体会議1部会  
(2) ウェルカムパーティー部会  
(3) 第1分科会部会  
(4) 第2分科会部会  
(5) 第3分科会部会  
(6) 第4分科会部会  
(7) 第5分科会部会  
(8) 代表者会議部会  
(9) オブショナルツアー部会  
(10) 全体会議2部会  
(11) その他必要な部会  
2 前項に規定する各部会から、それぞれ部会長を1名選出する。ただし、部会長は前条第1項に規定する役員の兼任を妨げない。

(会議)

第7条 1 実行委員会は、実行委員長が召集する。  
2 実行委員長は、必要に応じて実行委員会に関係者の出席者を求め、意見を聴取することができる。  
3 実行委員会を円滑に運営するため役員会を置く。  
4 役員会は、第5条第1項に規定する役員のほか、第6条第2項に規定する部会長で

構成し、実行委員長が召集する。

5 第2項の規定は、役員会の場合に準用する。この場合において、「実行委員会」とあるのは「役員会」と読み替えるものとする。

(事務局)

第8条 実行委員会の事務局を新潟市都市政策部都市計画課に置く。

(経費)

第9条 第3条の事業に要する経費は、負担金、協賛金、参加費及びその他の収入をもって充てる。

(その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、実行委員長が実行委員会に諮って定める。

附則

- 1 この規約は、平成19年6月5日から施行する。
- 2 この規約は、事業終了後3ヶ月をもって廃止する。

実行委員会役員・部会長・実行委員名簿

【役員】

実行委員長 いいがた花絵プロジェクト実行委員会 小柳行弘  
副実行委員長 タザワアトリエ 田澤則夫  
副実行委員長 日本ユニバーサルカラープランナー協会 高松智子  
会計 NIIGATA光のページェント実行委員会 山口浩二  
監事 万代シテイ商工連合会商店街振興組合 齋藤正行  
事務局長 NPO法人新潟水辺の会 森本 利

【部会長】

全体会議-1部会長 NPO法人新潟水辺の会 森本 利  
ウェルカムパーティー部会長 NIIGATA光のページェント実行委員会 山口浩二  
第1分科会部会長 KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所 皆川袈裟雄  
第2分科会部会長 市民大学新潟学の会 齋藤栄路  
第1・2合同分科会担当 萬代橋ファン倶楽部 保坂芳樹  
第3分科会部会長 サンクプロム石山商店街協同組合 柳澤 茂  
第4分科会部会長 万代シテイ商工連合会商店街振興組合 竹内啓祐  
第5分科会部会長 いいがた花絵プロジェクト実行委員会 関 京子  
オブショナルツアー部会長 明日の古町を考える会 堀川雅弘  
各都市代表者会議部会長 いいがた花絵プロジェクト実行委員会 小柳行弘  
全体会議-2部会長 日本ユニバーサルカラープランナー協会 高松智子

【実行委員】

実行委員 明日の古町を考える会 堀川雅弘  
実行委員 一番会 野口よそ美  
実行委員 KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所 皆川袈裟雄  
実行委員 サンクプロム石山商店街協同組合 柳澤 茂  
実行委員 市民大学新潟学の会 齋藤栄路  
実行委員 タザワアトリエ 田澤則夫  
実行委員 協同組合新潟あきんど塾 本間龍夫  
実行委員 NPO法人新潟水辺の会 森本 利  
実行委員 いいがた花絵プロジェクト実行委員会 関 京子  
実行委員 いいがた花絵プロジェクト実行委員会 小柳行弘  
実行委員 NIIGATA光のページェント実行委員会 山口浩二  
実行委員 万代シテイ商工連合会商店街振興組合 齋藤正行  
実行委員 万代シテイ商工連合会商店街振興組合 竹内啓祐  
実行委員 日本ユニバーサルカラープランナー協会 高松智子  
実行委員 萬代橋ファン倶楽部 保坂芳樹  
実行委員 関口陽子  
実行委員 新潟市都市政策部都市計画課 相田幸一

## 開港5都市景観まちづくり会議の開催経過（参考掲載）

○1993年(平成5年)8月

第1回 神戸大会 『市民主導のまちなみ・まちづくり』

○1994年(平成6年)10月

第2回 長崎大会 『市民主導のまちなみ・まちづくり』

○1996年(平成8年)2月

第3回 新潟大会 『港といっしょになった都市、一体となった都市ってなんだろう』

○1996年(平成8年)10月

第4回 函館大会 『北の開港都市に民の系譜をさぐる』

○1997年(平成9年)10月

第5回 横浜大会 『開港都市の伝統・文化を活かした街づくり』

○1998年(平成10年)

中断(神戸大会の代表者会議)

○1999年(平成11年)10月

第6回 神戸大会 『開港都市の未来(あした)を探る』

○2000年(平成12年)10月

第7回 長崎大会 『開港都市の遺伝子を伝える』

○2001年(平成13年)8月

第8回 新潟大会 『水都(みなと)にいがた夏!!ようこそ  
新世紀の開港都市文化を、暑い熱い新潟で語り合う』

○2002年(平成14年)10月

第9回 函館大会 『北国からのメッセージ いいべや「港・まち並み」考えよう』

○2004年(平成16年)3月

第10回 横浜大会 『150年の歴史とにぎわいづくり』

○2005年(平成17年)10月

第11回 神戸大会 『「開港都市のさらなる飛躍」～明るく、元気!!～』

○2006年(平成18年)9月

第12回 長崎大会 『開港によってもたらされた文化と歴史の継承』

●2007年(平成19年)11月

第13回 新潟大会 『実りの秋 にいがたへ来なせや  
田園と港が会おうまち、政令指定都市新潟で語り合おう』

## 2007新潟大会を終えて、交流が始まった

### 2008.2/27-28 万代シテイ商店街視察研修旅行

この開港5都市景観まちづくり会議で出会ったご縁から、万代シテイの商店街が視察研修事業で神戸に行ってきました。参加者はそれぞれ万代シテイの商店街を形成している店主やそこで働く店員、商店街事務局など。景観まちづくり会議の新潟事務局からは新潟市まちづくり推進課からもご参加いただきまして、総勢20名が神戸と新潟の交流も兼ねて中身の濃い2日間を過ごしてきました。

熱烈歓迎していただきご丁寧に研修に應對してくださった南京町の曹理事長と事務局の皆さん、楽しいお話と素敵なお土産までご用意いただいた神戸南京町景観形成協議会の高橋会長、美味しいお食事でもてなしして下さった群愛飯店の施さん、紙面をお借りして改めて御礼を申し上げます。

万代シテイではこの開港5都市の絆をもっともっと強く結ぶことができるよう、年に一度の大会以外にもこういった活動を積極的に計画したいと思っております。これからの街づくりをしていく上で、人のつながりを通じて各団体の皆さんとこのような機会でご一緒できれば幸いです。ますます実りある会に発展していけるよう、これからも皆さんの街へお伺いするつもりです。その時はぜひ楽しいお時間を一緒に過ごしましょう。



2/27 ○新潟空港発～伊丹空港～神戸市内視察  
・菊正宗酒蔵見学  
・メリケンパーク/ポートタワー  
・南京町視察/研修  
・懇親会 南京町「群愛飯店」

2/28 ○神戸市内見学/散策  
・北野異人館  
・元町



編集後記 事務局長 森本 利

思えば19年1月の景観ネットワークの新年会で大会の人事があり、トイレに行っている間に私が事務局長に決まっていたのでした。

根が断る事が出来ない性格なので受けましたが、最初はみんなの腰も重く、スロースタートでした。

4月に入り、新潟市のFさんやOさんを初めとする事務局の緻密な資料づくりとがんばりのお陰で順調に進み、私は音頭取りをただけでした。

新潟市で3回目となる今大会の実行委員は景観ネットワークとして日常的に集まっている仲間でもあり、新潟市のまちづくりの中心的な人物なので、動き出したら、急激に企画が膨らみ、そのピークが大会開催でした。みなさんお疲れさまでした。

また、本誌の執筆者の皆様、有り難うございます。

私は開催までにみんなと何度か美味しいお酒を飲み、大会では全国の仲間と旧交を温める事が出来ました。今年の函館大会や横浜のイベントでまた美味しいお酒を飲みましょう。

■発行日 2008.3.28

■発行/開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会実行委員会

■編集/開港5都市景観まちづくり会議・新潟大会実行委員会

編集長/森本 利 編集委員/渋谷研一、小柳行弘、藤田 豪

■デザイン/Creative Land 晴れ日

■印刷/株式会社 新潟活版所





**明日の古町を考える会**

古町商店街の将来像を検討する委員会として古町西堀地区商店街協議会内に発足。若手・中堅の商業者で構成。堀再生の発起など住民活動にも関わる。  
〒951-8063 新潟市中央区古町通五番町587-5  
古町通五番町商店街振興組合内  
tel.025-223-0153 fax.025-223-2359  
e-mail f-5@ec1.technowave.ne.jp



**KMM(カワ・ミチ・マチ)研究所**

私たちの暮らしを考える上でのキーワードは「水と土と人」です。縄文時代の昔から現在に至るまで、さらに将来に向けて、暮らしの有り様を「水と土と人」の切り口で探り続けている研究所です。  
〒951-8017 新潟市中央区野川岸町4464番地  
tel.025-223-6855 fax.025-228-5675  
e-mail mngwkmm@ecatv.home.ne.jp



**市民大学新潟学の会**

にいがた市民大学「新潟学コース」のOBメンバーを中心に「にいがた」の景観、交通、伝統産業、まちづくり等の観点から勉強を続けている市民グループです。  
〒950-0075 新潟市中央区沼垂東1-5-22 斎藤米路  
tel.025-241-3110 fax.025-241-3117



**にいがた花絵プロジェクト実行委員会**

球根育成の為、摘み取られるチューリップの花を使って花絵を作り、地域コミュニティの復活、市緑化啓発、生産者へのエール、観光事業への貢献を目指している市民団体です。  
〒951-0863 新潟市中央区本町通5番町 本町中央市場内  
tel.&fax.025-222-8710  
e-mail hanae@silver.plala.or.jp  
URL http://www.niigata-hanae.jp



**日本ユニバーサルカラープランナー協会**

自然から学ぶ普遍的調和法「ユニバーサルカラーコーディネートシステム」を通し、色の関係性や影響力・考え方を啓発し、カラーウォッチングやワークショップにより、衣・食・住環境、街づくりや自然景観とのマッチング、公共空間における、安全で快適・美的な環境色彩のあり方やより良い関係性の創造に貢献していくことを目的に活動している団体です。  
〒950-0862 新潟市東区竹尾2-23-3  
tel.025-274-6437 fax.025-272-2988  
e-mail honbu@b-y-color.com  
URL http://www.b-y-color.com

**萬代橋ファン倶楽部**



**萬代橋ファン倶楽部**

新潟市のシンボル、国の重要文化財の(萬代橋)(ばんだいばし)が好きな人が集まり萬代橋と信濃川周辺の景観と環境・自然を守るまちづくりを考え、美しい萬代橋を楽しく内外にアピールする会。  
〒951-8062 新潟市中央区西堀前通6番町894 西堀ローサ・ヨリナレ内  
tel.025-224-5756 fax.025-225-7170  
e-mail bbfc.05823.nn@lake.ocn.ne.jp



**一番会**

新潟火消しの伝統を継承し、消防出初め式を始め、はしご乗りの技を市民に披露し、「火の用心」の意識高揚と、様々な地域の安全活動に寄与し、安心して暮らせる新潟づくりに取り組んでいる市民団体です。  
〒950-7026 新潟市西区上新栄町5-16-14  
tel.025-260-1203 fax.025-260-7029



**サンクプロム石山商店街同組合**

自然が感じられる潤いのある生活空間を求めて景観形成された商店街。普段着のまま人が集い憩うことを願いつつ、ひそかに地域景観まちづくりを発信しつづけています。  
〒950-0834 新潟市東区石山団地10-7 (有)クリマ内  
tel.025-276-2741 fax.025-277-5985  
e-mail info@kurima.com



**タザワアトリエ**

暮らしを彩り、情緒豊かなところを育てる今日と明日の刻々と変わる風景に浸り、心を通わせ絵におこして生活を楽しむ。人それぞれに個性豊かな風景の世界観があり、それを大切にしたい。  
〒950-2022 新潟市西区小針6-69-9  
tel.&fax.025-265-7252  
e-mail t-garan@sage.ocn.ne.jp



**NPO法人新潟水辺の会**

「水都にいがた」実現のために発足し、昨年10月で20周年を迎えました。会員は全国に230名ほど。水辺ウォッチングやシンポジウム、研修旅行など水辺に関わる楽しい活動をしています。会費は2,000円。(法人会員10,000円、大学生以下1,000円)どなたでも入会できます。3月1日に20周年記念誌を発刊しました。有料ですが興味のある方はお買い求めください。  
〒950-2264 新潟市西区みずき野4-7-15  
tel.025-264-3191 fax.025-264-3260  
e-mail mizubenokai@plum.plala.or.jp



**NIIGATA光のページェント実行委員会**

「新潟の長い冬を少しでも明るくしたい!」そして「子供たちに夢を与えたい!」という願いからスタートし、にいがたの冬の風物詩として20回目を迎えることができました。  
〒950-0981 新潟市中央区堀之内32 JA新潟市鳥屋野支店内  
tel.025-243-1546 fax.025-245-3557  
e-mail minami-s@cream.plala.or.jp  
URL http://www.hikari-pageant.com



**万代シティ商工連合会商店街振興組合**

新潟駅と古くからの繁華街古町の間に位置する、新潟随一の商業集積地「万代シティ」。ここに集まる大小約60店舗で構成される商店街です。  
〒950-0088 新潟市中央区万代1-6-1  
tel.025-246-6424 fax.025-243-6722  
e-mail info@bandaicity.com  
URL http://www.bandaicity.com



**市章**

港のしるし船と中央の「五」をもって、安政5年に指定された5港を意味し、当頂を頂かせて5港の一つ新潟をあらわす。

**新潟市(都市政策部都市計画課)**

江戸時代から北前船の最大寄港地として賑わいを見せ、安政5年の日米修好通商条約によって開港5港の一つに指定。平成19年政令指定都市に移行。交通拠点であると同時に大農業都市という、これまでにない政令指定都市としてこれからも発展を続けていきます。  
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1  
tel.025-228-1000(内線32687) fax.025-229-5150  
e-mail tokel@city.niigata.lg.jp  
URL http://www.city.niigata.jp